

2022 年度

# 授 業 計 画

介護福祉学科



学校法人 敬心学園 東京都知事認可 厚生労働省指定養成施設

日本福祉教育専門学校

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	人間の尊厳と自立		黒木 豊域		
<b>■授業のねらい</b>						
介護福祉士には「尊厳」を保持し、自立に向けた生活支援を実践することが求められている。このため、生活支援を実践するうえで、人間の「尊厳」を尊重するとは具体的にどのようなことか。また自立の概念に関して生活支援との関係で理解し、知識を得る。						
<b>■授業の方法</b>						
講義形式だけでなく、グループワークなど、課題について考え発表することにより、授業を展開する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
人権の尊重・自立支援の概念の中で、職場に生じる「困りごと」への考え方が身に付く。 専門職として、自ら人権を尊重し、個々の利用者の方に対する自立支援が実践できるようになる。						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・一番大切なものは何か</li> <li>2. 介護における「困りごと」が生じる原因と解決の条件</li> <li>3. 問題解決の6原則：倫理的配慮とは</li> <li>4. 問題解決の6原則の活用法</li> <li>5. ステップ by ステップ 6原則の事例</li> <li>6. 利用者と介護職の間に生じる困りごと事例検討1</li> <li>7. 利用者と介護職の間に生じる困りごと事例検討2</li> <li>8. 利用者と介護職の間に生じる困りごと事例検討3</li> <li>9. 利用者と介護職の間に生じる困りごと事例検討4</li> <li>10. 利用者と家族、家族と介護職の間に生じる困りごと事例検討1</li> <li>11. 利用者と家族、家族と介護職の間に生じる困りごと事例検討2</li> <li>12. 利用者と家族、家族と介護職の間に生じる困りごと事例検討3</li> <li>13. 利用者と家族、家族と介護職の間に生じる困りごと事例検討4</li> <li>14. 人間の尊厳－「生きること」の尊さ－</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期試験 60% ・ 授業内の課題と発表 40%						

<b>■教科書</b>
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座Ⅰ 人間の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
なし

年度	学 科	単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科	2 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半 期
必修・選択	種 別	科 目 名		担 当 教 員	
必修	講義	人間関係とコミュニケーション I		黒木 豊域	
<b>■授業のねらい</b>					
<p>①対人援助職の基本は、人間関係の構築である。介護福祉士は介護を作業として行なうのではなく、利用者の理解と人間関係を基盤に介護福祉士を展開していく。したがって介護福祉士は、人間関係を構築できる専門職であることが求められる。</p> <p>②介護福祉士は、利用者のみならず利用者の家族との関係も構築することが求められる。</p> <p>③介護福祉士は、多職種間の中でチームとして支援に当たるため、職場内での人間関係作りが求められる。</p> <p>④社会の最小単位である家庭において夫婦間、親子間で良好な関係を築きつつ良好なコミュニケーション力を身につけることを目指す。</p>					
<b>■授業の方法</b>					
配布プリントや教科書に沿って進む。またグループ活動と発表も行なう。					
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>					
カウンセラーとしての経験をふまえ、良好な人間関係を築くための理論と方法を教授する。					
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>					
<p>①良好な人間関係を自ら築いていく方法を身につける。</p> <p>②自己覚知の能力を高め、良好な関係の発展に備えることができる。</p> <p>③実習においても積極的に関係作りができる。</p>					
<b>■授業計画</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業の進め方について</li> <li>2. 自分理解と人間関係</li> <li>3. 他者理解と人間関係</li> <li>4. 発達心理からみた人間関係</li> <li>5. 社会心理から見た人間関係</li> <li>6. 人間関係と個人の特質</li> <li>7. コミュニケーションとは</li> <li>8. コミュニケーションの技法①</li> <li>9. コミュニケーションの技法②</li> <li>10. 職業人としての人間関係</li> <li>11. 対人援助専門職としての人間関係</li> <li>12. 人間関係とバイステック</li> <li>13. チームの一員としての人間関係とコミュニケーション</li> <li>14. 誰からも好まれる人となるコミュニケーション技法</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>					

<b>■成績評価</b>
1. 課題 (20%) 2. その他の提出物 (20%) 3. 定期試験 (60%) 合計 100%とし、A～D の成績評価とする。
<b>■教科書</b>
介護福祉士養成講座「人間の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
なし

年度	学 科	単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科	2 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半 期
必修・選択	種 別	科 目 名		担 当 教 員	
必修	講 義	人間関係とコミュニケーションⅡ		黒木 豊域	
<b>■授業のねらい</b>					
<p>介護は医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。チームで働く力を養うためには、マネジメントに関する基礎的な知識をおさえるだけでなく、リーダーやフォロワーがとるべき行動を理解し、チームワークを展開できる実践力を育むことも必要です。</p> <p>そこでこの授業では、現場で起こりうる課題を題材にした事例を活用し、ケースメソッドによる学習を通して業務課題の発見や、リーダー・フォロワーの役割について疑似的に考える内容を、終盤のまとめ授業に位置づけて計画しました。</p> <p>授業展開例で紹介するケースメソッドは、学生が受動的に学習するのではなく、能動的に取り組むためのアクティブラーニングの視点や方法を取り入れています。事例を活用した能動的な学習を通して、知識だけでなく自らの経験や価値・倫理観を含めた汎用的能力育成や、介護福祉士としてのキャリアデザインを描く機会となることも期待しています。</p>					
<b>■授業の方法</b>					
配布プリントや教科書に沿って進む。またグループ活動と発表も行なう。					
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>					
介護サービス施設運営の経験から、介護サービスの組織と経営について教授する。					
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>					
<p>①組織の運営と管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる。</li> <li>・実習経験を事例に、ケアを展開するために必要なチームの構成や役割について説明できる。</li> </ul> <p>②人材の育成や活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。</li> <li>・実践力を高めるために必要な、人材育成・開発のしくみ（OJT、OFF-JT 及び SD、SV）・方法について理解できる。</li> <li>・介護福祉士の多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。</li> </ul> <p>③リーダーシップとフォロワーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。</li> <li>・様々な介護サービスの事例を活用し、業務課題の発見と解決の過程をイメージできる。</li> </ul>					
<b>■授業計画</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業の進め方について</li> <li>2. 前期テストの振り返り</li> </ol>					

<ul style="list-style-type: none"> <li>3. チームマネジメントの基本 チームマネジメントとは何か</li> <li>4. ケアを展開するために必要なチーム</li> <li>5. キャリア開発のしくみ</li> <li>6. ワーク・ライフ・バランス</li> <li>7. 福祉サービスと事業所組織</li> <li>8. 事業所組織の機能と役割①</li> <li>9. 事業所組織の機能と役割②</li> <li>10. 事業所組織の経営</li> <li>11. 地域におけるチームマネジメント</li> <li>12. 業務課題の発見と解決の方法①</li> <li>13. 業務課題の発見と解決の方法②</li> <li>14. まとめ：チームリーダーとして介護福祉士に求められる役割</li> <li>15. 定期試験</li> </ul>
<p><b>■成績評価</b></p>
<p>1. 課題（20%） 2. その他の提出物（20%） 3. 定期試験（60%） 合計 100%とし、A～D の成績評価とする。</p>
<p><b>■教科書</b></p>
<p>介護福祉士養成講座「人間の理解」中央法規</p>
<p><b>■履修にあたっての留意点、その他</b></p>
<p>なし</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科		2単位	30時間	15回	1年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	高齢者に対する支援と介護保険制度		黒木 豊域		
<b>■授業のねらい</b>						
介護保険制度の背景と目的を理解し、高齢者に対してどのように活用されているのかを学ぶ。高齢者の生活や環境について学び、現状や問題点を知ることによってどのように対応するか理解する。						
<b>■授業の方法</b>						
作業シートを利用した対面または沿革による講義。 グループで作業シートに取組み、授業の終わりに小テストを実施する。 グループ活動で介護サービス利用までの流れを模造紙に描き、グループ発表を行なう。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護サービス施設運営の経験から、介護保険制度の利用の流れと報酬の流れについて教授する。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
介護保険制度を利用者視点で理解し、活用できる。 介護におけるさまざまな問題点を捉え、的確に支援につなげる視点を養う。 制度の背景や理念について理解する。						
<b>■授業計画</b>						
1. 私達の生活と社会福祉 2. 介護保険制度の創設と目的 pp. 148-153 3. 介護保険制度の仕組みの概要1 pp. 153-156 4. 介護保険制度の仕組みの概要2 pp. 159-164 5. 介護サービス利用までの流れ pp. 164-170 6. 介護保険給付の種類と内容 pp. 170-175 7. 介護サービス利用までの流れ：図式化 8. 介護サービス利用までの流れ：発表 9. 地域支援事業 pp. 177-182 10. 地域包括ケアシステム pp. 182-186 11. 介護保険制度に関わる組織とその役割 pp. 186-192 12. 介護保険制度における専門職の役割 pp. 193-196 13. 介護保険制度改正の背景と方向性 pp. 196-200 14. 介護保険制度の動向 pp. 200-203 15. 定期試験						
<b>■成績評価</b>						
出席 15%、発表 10%、小テスト 15%、定期試験 60% 合計100%とし、A～Dの成績評価とする。						



<b>■教科書</b>
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
なし

年度	学 科	単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科	2 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員	
必修	講義	介護のための心理と音楽		高橋透馬・平野夏子	
<b>■授業のねらい</b>					
<p>心理学の3大基礎領域とされる動機づけ・知覚・学習を学ぶことによって、人間共通の行動傾向を理解したのち、知能、性格等のパーソナリティ理論、および発達理論により個人差について学ぶ。また、高齢者が児童期・青年期に慣れ親しんだ音楽について学び、音楽療法理論に基づいて、音楽を心身の活性化やリラクゼーション、コミュニケーションの促進等の目的で活用する音楽レクリエーションの実践方法を学ぶ。</p>					
<b>■授業の方法</b>					
<p>テキスト、プリント及び視聴覚材料を用いながら、講義を中心に行う。</p> <p>音楽では音楽療法を実際に体験し、音楽活動の計画立案や実践を含むグループワークも取り入れた授業を行う。</p>					
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>					
<p>高橋：地域精神保健福祉の臨床現場で主に精神障害をお持ちの方に対する相談支援業務を行ってきた。現場での実践経験を授業に取り入れることができればと思っている。</p> <p>平野：音楽療法士として25年以上にわたり介護施設および認知症病棟で音楽療法を実践し、豊島区認証の認知症カフェにおいても音楽を活用した実践を行ってきた。この経験をもとに、介護の現場で音楽を有効に活用する方法を、体験的・実践的な授業の中で学んでもらう。</p>					
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>					
<p>心理学の知識を用いた人間理解の方法を学ぶ。</p> <p>さまざまな心理療法について実践可能なレベルまで理解を深める。</p> <p>音楽療法的な視点を持って音楽レクリエーションを計画することができる</p> <p>音楽を活用して、施設利用者とのコミュニケーションを促進することができる</p>					
<b>■授業計画</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚と知覚</li> <li>2. 記憶と学習</li> <li>3. 動機づけの心理学</li> <li>4. パーソナリティ（知能、性格）</li> <li>5. 発達心理学</li> <li>6. 社会心理学</li> <li>7. 臨床心理学</li> <li>8. 音楽療法的音楽活動とは</li> <li>9. 音楽を用いた身体活動の目的と方法</li> <li>10. 楽器を用いた音楽活動の目的と方法</li> <li>11. 童謡唱歌を用いた音楽活動の目的と方法</li> <li>12. 流行歌を用いた音楽活動の目的と方法</li> <li>13. 活動計画の作成の方法</li> <li>14. グループ発表</li> </ol>					

15. 定期試験
<p>■成績評価</p> <p>定期試験 100%</p>
<p>■教科書</p> <p>「CD付 すぐに使える！ 高齢者のための音楽レクリエーション 音楽療法のプロが教える」(藤井洋平・加藤俊徳：監修 メイツ出版* (発行年月日：2018年9月15日))  *社名変更：現在は、メイツ・ユニバーサルコンテンツ</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>なし</p>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	介護の基本 I		宮 里 裕 子		
<b>■授業のねらい</b>						
介護の成り立ち、介護の概念、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉の社会的な状況をとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本理念を習得する。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書、プリント資料及び視聴覚教材を用いながら進める。内容に応じて調べ学習（日本の行事など）成果報告会、グループワークを取り入れた講義を行う。 小テストを行い、分野ごとの確認試験を行う。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士として長年介護現場で勤めており、実際の福祉制度・介護の変遷の現状を伝える事ができる。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護を必要とする人の「その人らしさ」を理解し生活の個別性と多様性について説明できる。</li> <li>・ 介護の成り立ち、制度化以前の介護を説明できる。</li> <li>・ 介護の基本理念を学び、尊厳を支える介護、自立を支える介護が展開できる。</li> <li>・ 介護福祉士の機能を理解し、介護人材のリーダーとしての資質を見に付けることができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・介護とはなにか</li> <li>2. 介護の成り立ち</li> <li>3. 介護概念の変遷①</li> <li>4. 介護概念の変遷②</li> <li>5. 介護概念の変遷③</li> <li>6. 介護福祉の基本理念 尊厳</li> <li>7. 介護福祉の基本理念 自立</li> <li>8. 介護福祉の基本理念 自己決定権</li> <li>9. 介護福祉士の活躍の場①</li> <li>10. 介護福祉士の活躍の場②</li> <li>11. 介護福祉を必要とする人の理解</li> <li>12. 「その人らしさ」とは</li> <li>13. 「生活ニーズ」とは</li> <li>14. 生活のしづらさの理解と支援</li> <li>15. 前期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期試験 80%、出席状況 20%						

■教科書
最新 介護福祉士養成講座4 中央法規「介護の基本Ⅰ」
■履修にあたっての留意点、その他
授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科	単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科	2 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員	
必修	講義	介護の基本Ⅱ		宮里 裕子	
<b>■授業のねらい</b>					
<p>自立支援の考え方、ICF の視点に基づくアセスメントを学ぶ。エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援に応じた環境整備や介護予防の方法を習得する。</p> <p>介護福祉士の役割を学び、資格取得後の求められる介護人材を理解する。</p>					
<b>■授業の方法</b>					
<p>教科書、プリント資料及び視聴覚教材を用いながら進める。内容に応じて調べ学習（日本の行事など）成果報告会、グループワークを取り入れた講義を行う。小テストを行い、分野ごとの確認試験を行う。</p>					
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>					
<p>介護福祉士として長年介護現場で勤めており、実際の福祉制度・介護の変遷の現状を伝える事ができる。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。</p>					
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉士の役割と機能を理解し、自立支援の考え方を展開できる。</li> <li>・ ICF に基づきエンパワメントの視点を実践できる。</li> <li>・ 介護福祉士取得時の到達目標を理解でき、卒業後が意識できる。</li> <li>・ 自立支援の環境整備ができ介護予防を実践できる。</li> </ul>					
<b>■授業計画</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士及び介護福祉士法</li> <li>2. 介護福祉士養成カリキュラムの意味①</li> <li>3. 介護福祉士養成カリキュラムの意味②</li> <li>4. 介護福祉士の倫理①</li> <li>5. 介護福祉士の倫理②</li> <li>6. 自立支援の考え方①</li> <li>7. ICF の考え方①</li> <li>8. ICF の考え方とストレングス</li> <li>9. 自立支援とリハビリテーション</li> <li>10. リハビリテーションにおける介護福祉士の役割</li> <li>11. 介護予防</li> <li>12. 自立支援と介護予防</li> <li>13. 日本の行事調べ①</li> <li>14. 日本の行事調べ②</li> <li>15. 後期試験</li> </ol>					
<b>■成績評価</b>					
定期試験 80%、出席状況 20%					

<b>■教科書</b>
最新 介護福祉士養成講座4 中央法規「介護の基本Ⅰ」 中央法規「介護福祉士国試ナビ 2023」
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
授業の進捗により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科		1 単位	30 時間	15 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	コミュニケーション技術 I		黒木 豊域		
<b>■授業のねらい</b>						
対人援助の専門職として必要なコミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得する。						
<b>■授業の方法</b>						
配布プリントや教科書に沿って進む。またグループ活動と発表も行なう。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
カウンセラーとしての経験をふまえ、自己理解が他者へ与える影響への理解と自分自身の活用の仕方を教授する。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人援助職としてなぜコミュニケーションが重要かを理解する。</li> <li>・具体的なコミュニケーションを図るための様々な方法を学習し、習得する。</li> <li>・他者に共感し、相手の立場に立って考えられる思考力や、想像力・創造力を養い、対人援助職としての基本的態度を身につける。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業の進め方について</li> <li>2. コミュニケーションの基本</li> <li>3. 介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本姿勢</li> <li>4. 介護福祉士に求められるコミュニケーションの意義と役割</li> <li>5. 自己覚知の必要性</li> <li>6. 自己覚知の技法と価値観</li> <li>7. 価値観から理解する他者</li> <li>8. 円滑なコミュニケーションと距離感</li> <li>9. 利用者や家族との関係作りに必要なコミュニケーション</li> <li>10. 他者から自分はどのように見られているか</li> <li>11. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション</li> <li>12. 質問技法</li> <li>13. 納得と同意、明確化と要約のコミュニケーション</li> <li>14. 他者を尊重するコミュニケーション</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題・提出物（30%）</li> <li>2. クラス発表（10%）</li> <li>3. 定期試験（60%）</li> </ol> <p>合計 100%とし、A～D の成績評価とする。</p>						



■教科書
最新・介護福祉養成講座5 『コミュニケーション技術』(中央法規)
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科1クラス		2単位	60時間	30回	1年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	生活支援技術 I		齊藤 美由紀・長嶋 千秋		
<b>■授業のねらい</b>						
前期では、介護をおこなう上での身だしなみや基本事項をしっかりと身につける。また、利用者の日常生活や基本的な生活行為を理解し、根拠のある生活支援技術を習得する。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書や配布プリントに沿って講義をしながら、グループ演習を中心に進めていく。また、専門用語の理解と習得もできるよう、実際の介護場面や事例を用いて授業を進める。 *校外学習を取り入れることもある。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士として、長年介護現場に従事してきた教員による講義・演習とする。高齢福祉、障害福祉、施設サービス、在宅サービスと様々な種別の介護現場に携わってきたことで、実際の事例等を用いた授業を行っていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活や生活行為について説明することができる。</li> <li>・ボディメカニクスを活用した介護実践ができる。</li> <li>・快適なベッドメイキングを実践できる。</li> <li>・安心して安楽な体位交換の実践ができる。</li> <li>・自立支援を意識した起居動作の実践ができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1・2 オリエンテーション・生活支援への理解						
3・4 自立に向けた住環境の整備						
5・6 自立に向けた家事支援						
7・8 高齢者疑似体験						
9・10 人体の動きの理解（ボディメカニクス）						
11・12 休息・睡眠の介護（ベッドメイキング）						
13・14 休息・睡眠の介護（ベッドメイキング）						
15・16 実技試験①						
17・18 休息・睡眠の介護（安楽な体位／体位交換）						
19・20 起居動作①						
21・22 起居動作②						
23・24 立位①						
25・26 立位②						
27・28 実技試験②						
29 使用物品／教室の衛生管理						
30 定期試験						

<b>■成績評価</b>
定期試験（40％）、実技試験（40％）、出席率（20％）
<b>■教科書</b>
最新介護福祉士養成講座 6・7 中央法規「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規「介護福祉士国試ナビ 2023」
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
講義の進度により、講義内容や順番が変更になる場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科2クラス		2単位	60時間	30回	1年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	生活支援技術 I		細野 真代・徳山 滋久		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>日常生活の基本的な生活行為とその根拠・必要性を理解してその支援が必要な方への基礎的な生活支援技術を修得する。</p> <p>介護職として必要な身だしなみ、整理整頓をしっかり身につける。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
教科書、プリント資料及び視聴覚教材を用いながら進める。グループで演習し、技術力を高める。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士として長年介護現場で勤めてきた教員による介護現場を踏まえた実技演習とする。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディメカニクスの原則を説明できる。</li> <li>・人間の身体の動きを理解できる。</li> <li>・自立した起居動作の一連の流れを理解し、生活支援技術が提供できる。</li> <li>・その人らしい生活環境が提供できる。</li> <li>・介護に必要な物品を丁寧に扱うことができる。</li> <li>・介護を提供する環境を常に清潔に保つことができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1・2 生活支援の理解 3・4 自立に向けた住環境の整備 5・6 自立に向けた家事の支援技術（掃除・洗濯） 7・8 人体の動きの理解（ボディメカニクス） 9・10 高齢者疑似体験 11・12 休息・睡眠の介護（ベッドメイキング①） 13・14 休息・睡眠の介護（ベッドメイキング②） 15・16 実技試験① 17・18 休息・睡眠の介護（安楽な体位） 19・20 起居動作① 21・22 起居動作② 23・24 立位① 25・26 立位② 27・28 実技試験② 29 使用物品・教室の衛生管理 30 定期試験とまとめ						

<b>■成績評価</b>
定期試験 筆記試験 40% 実技試験 40% 出席状況 20%
<b>■教科書</b>
最新介護福祉士養成講座 6・7 中央法規「生活支援技術 I・II」 中央法規「介護福祉士国試ナビ 2023」
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科 1 クラス		3 単位	90 時間	45 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	生活支援技術Ⅱ		齊藤 美由紀・中島 たまみ		
<b>■授業のねらい</b>						
ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動・移乗動作、整容身じたく、食事、排泄、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書、配布資料、視聴覚教材等を用いながら、授業を進める。介護技術は、少人数のグループで演習を行い、技術力を高める。*校外学習を取り入れることもある						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士として、長年介護現場に従事してきた教員による講義・演習とする。高齢福祉、障害福祉、施設サービス、在宅サービスと様々な種別の介護現場に携わってきたことで、実際の事例等を用いた授業を行っていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・持っている機能を活用し、自立に向けた安心できる移動・移乗介助の方法を実践できる。</li> <li>・移動・移乗のための環境と環境整備、福祉用具について説明できる。</li> <li>・利用者の生活習慣、状態に適した身じたくの介護が展開できる。</li> <li>・持っている機能を活用し、心身の状況に応じた食事介助が実践できる。</li> <li>・利用者の尊厳を遵守し、個々の状態に応じた適切な排泄方法が実践できる。</li> <li>・生活支援の基礎的な技術・知識を習得し、実践の根拠について説明できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1・2 福祉用具の意義と活用（国際福祉機器展）						
3・4・5 移動支援技術①						
6・7・8 移動支援技術②						
9・10・11 移動支援技術③						
12・13・14 移乗支援技術①						
15・16・17 移乗支援技術②						
18・19・20 実技試験①						
21・22・23 身じたくの支援技術①						
24・25・26 身じたくの支援技術②						
27・28・29 身じたくの支援技術③						
30・31・32 食事の支援技術①						
33・34・35 食事の支援技術②						
36・37・38 排泄の支援技術①						
39・40 排泄の支援技術②						
41・42・43 実技試験②						

44	使用物品・教室の衛生管理
45	定期試験
<b>■成績評価</b>	
定期試験（40％）、実技試験（40％）、出席率（20％）	
<b>■教科書</b>	
最新介護福祉士養成講座 6・7 中央法規「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規「介護福祉士国試ナビ 2023」	
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>	
講義の進捗により、講義内容や順番が変更になる場合がある。	

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科 2 クラス		3 単位	90 時間	45 回	1 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	生活支援技術Ⅱ		細野 真代・宮里 裕子		
<b>■授業のねらい</b>						
ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移乗・移動動作、整容・身じたく、食事、排泄、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書、プリント資料及び視聴覚教材を用いながら進める。グループで演習し、技術力を高める。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士として長年介護現場で勤めてきた教員による介護現場を踏まえた実技演習とする。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・持っている機能を活用し自立に向けた安心できる移動・移乗介助の方法を実践できる。</li> <li>・移動・移乗のための環境と環境整備、福祉用具について説明できる。</li> <li>・利用者の生活習慣、状態に適した身じたくの介護が展開できる。</li> <li>・持っている機能を活用し心身の状況に応じた食事介助が実践できる。</li> <li>・利用者の尊厳を遵守し、個々の状態に応じた適切な排泄方法が実践できる。</li> <li>・生活支援の基礎的な技術・知識を習得し、実践の根拠について説明できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1・2	校外授業 福祉用具の意義と活用（国際福祉機器展）					
3・4・5	移動支援技術①					
6・7・8	移動支援技術②					
9・10・11	移動支援技術③					
12・13・14	移乗支援技術①					
15・16・17	移乗支援技術②					
18・19・20	実技試験					
21・22・23	身じたくの支援技術①					
24・25・26	身じたくの支援技術②					
27・28・29	身じたくの支援技術③					
30・31・32	食事の支援技術①					
33・34・35	食事の支援技術②					
36・37・38	排泄の支援技術①					
39・40	排泄の支援技術②					
41	使用物品・教室の衛生管理					



42・43・44	実技試験
45	定期試験
<b>■成績評価</b>	
定期試験 筆記試験 40% 実技試験 40% 出席状況 20%	
<b>■教科書</b>	
最新介護福祉士養成講座 6・7 中央法規「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規「介護福祉士国試ナビ 2023」	
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>	
授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。	

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		1 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	介護過程 I		宮里 裕子		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>介護過程は、利用者の生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスであることを理解する。</p> <p>アセスメント方法を習得し、関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を統合化することで、利用者の理解と課題解決に結びつけることを学ぶ。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>教科書、プリント資料及び視聴覚教材を用いながら講義を行い、事例演習やグループワークを取り入れて進める。調べ学習、グループワークでまとめた内容を発表する。</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>介護福祉士として長年介護現場で勤めており、多様な利用者の生活が理解できる。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護過程の意義・目的を通じて介護過程のプロセスを説明できる。</li> <li>・ 具体的な支援を考えるための情報収集ができる。</li> <li>・ 情報を解釈し統合化することができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・介護過程とは何か</li> <li>2. 介護過程の意義・目的</li> <li>3. 介護過程の全体像①</li> <li>4. 介護過程の全体像②</li> <li>5. 介護過程と生活支援①</li> <li>6. 介護過程と生活支援②</li> <li>7. アセスメント（情報収集）①</li> <li>8. アセスメント（情報収集）②</li> <li>9. アセスメント（情報収集）③</li> <li>10. アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）①</li> <li>11. アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）②</li> <li>12. アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）③</li> <li>13. 生活課題の明確化①</li> <li>14. 生活課題の明確化②</li> <li>15. 前期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
<p>定期試験 80%、出席状況 20%</p>						

■教科書
最新介護福祉士養成講座 14 中央法規「介護過程」
■履修にあたっての留意点、その他
授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		1 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	介護過程Ⅱ		宮里 裕子		
<b>■授業のねらい</b>						
介護過程の一連のプロセスを行い、利用者の「より良い生活」の実現に向けて、生活課題を解決するために取り組む思考過程であることを理解する。必要な情報収集を行い、分析・解釈に基づいて計画し実施・評価する過程を学ぶ。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書、プリント資料及び視聴覚教材を用いながら講義を行い、事例演習やグループワークを取り入れて進める。調べ学習、グループワークでまとめた内容を発表する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士として長年介護現場で勤めており、多様な利用者の生活が理解できる。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の形態別事例検討から直接的・間接的な情報収集ができる。</li> <li>・統合化し生活課題を明確化できる。</li> <li>・利用者の望む生活を科学的な思考過程に基づき実践できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の生活像を知る</li> <li>2. 利用者の生活像を理解する</li> <li>3. 介護過程の実践展開（情報収集）事例 A・B</li> <li>4. 介護過程の実践展開（情報収集）①</li> <li>5. 介護過程の実践展開（情報収集）②</li> <li>6. 介護過程の実践展開（解釈・関連づけ・統合化）①</li> <li>7. 介護過程の実践展開（解釈・関連づけ・統合化）②</li> <li>8. 介護過程の実践展開（生活課題）</li> <li>9. 事例 A・B 発表</li> <li>10. 介護過程の実践展開（情報収集）事例 C・D</li> <li>11. 介護過程の実践展開（情報収集）</li> <li>12. 介護過程の実践展開（解釈・関連づけ・統合化）</li> <li>13. 介護過程の実践展開（生活課題）</li> <li>14. 事例 C・D 発表</li> <li>15. 後期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期試験 80%、出席状況 20%						

■教科書
最新介護福祉士養成講座 14 中央法規「介護過程」
■履修にあたっての留意点、その他
授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		1 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	介護総合演習 I		岡本 啓介		
<b>■授業のねらい</b>						
介護実習を有意義なものにするため、実習の事前学習・ふりかえりを行い、授業で学んだ介護の知識・技術と実習とを結び付けることができるようにする。また学生それぞれの実習での学びを共有し、理解を深め、専門職としての介護観や、自己の課題を客観視できるようになることを目的とする。						
<b>■授業の方法</b>						
実習の事前学習、振り返り、学びの共有の時間にするため、主にグループワークを取り入れた授業となる。適宜ビデオなど視覚教材を使用する場合もある。 週 1 回程度、記録の時間を設け、学科専任教員全員で確認を行う。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として 20 年以上の指導経験がある。現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え、乗り越えていくための授業をする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
これまで学んだ知識や学内での学びを統合して、実際に介護現場に適用できる。 *学外学習を取り入れることもある						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 介護総合演習の位置づけと目的について</li> <li>2. 実習の意義・目的、介護実習 I について</li> <li>3. 介護実習におけるマナー、約束事（実習生プロフィール） 事前オリエンテーション、報告・連絡・相談、欠席の取りあつかい</li> <li>4. 実習施設理解（実習 I - 1 に向けて）</li> <li>5. 実習施設概要を記録する意義と書き方</li> <li>6. 実習目標の意義と立て方</li> <li>7. 実習目標の作成</li> <li>8. 実習記録の意義と書き方</li> <li>9. 介護実習 I - 1 ふりかえり 種別の違いの理解</li> <li>10. 介護実習 I - 1 ふりかえり 良かったこと・困ったこと事例の共有</li> <li>11. 介護実習 I - 1 ふりかえり コミュニケーションの工夫の共有</li> <li>12. 介護実習 I - 2 に向けての準備</li> <li>13. 実習終了後の流れ 実習記録の提出とお礼状</li> <li>14. 介護実習 I - 2 に向けての準備</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
・成績評価 70%、出席率 30%						

<p>■教科書</p>
<p>「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「実習要項」日本福祉教育専門学校 介護福祉学科</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目の欠席回数が1/5を超えたとき、原則実習配属しない。</li> <li>・お礼状についての教授回では、便せん、封筒、切手を用意すること。</li> <li>・講義の進捗により講義内容が変更になる場合がある。</li> </ul>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		1 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	介護総合演習Ⅱ		岡本 啓介		
<b>■授業のねらい</b>						
介護実習で幅広く学べるよう実習の事前・事後学習を確実に実施し介護の知識・技術と実習が連動していることを知る。学生それぞれの実習での学びを共有し、自己覚知と介護観の確立ができるようになることを目的とする。						
<b>■授業の方法</b>						
介護総合演習Ⅰにおける学びを活かし自己の課題を明確にするため、グループワークを取り入れた講義を行なう。適宜ビデオなど視覚教材を使用する場合もある。 週1回程度、記録の時間を設け、学科専任教員全員で確認を行う。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として20年以上の指導経験がある。現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え、乗り越えていくための授業をする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
これまで学んだ知識や学内での学びを統合して、実際に介護現場に適用できる。 *学外学習を取り入れることもある						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 介護実習Ⅰ－2ふりかえり 事例の共有</li> <li>2. 「アクティブ福祉'22」（またはそれに準ずるものが開催された場合） 介護現場実践事例を聞く</li> <li>3. 「アクティブ福祉'22」（またはそれに準ずるものが開催された場合） 介護現場実践事例を聞く</li> <li>4. 介護実習Ⅰ－2ふりかえり 検討事例の集約</li> <li>5. 介護実習指導者懇談会または事例検討</li> <li>6. 事例検討を受けてのロールプレイ体験</li> <li>7. プロセスレコードとは</li> <li>8. プロセスレコード演習</li> <li>9. 介護実習Ⅰ－3に向けて 実習記録上の間違いやすい単語</li> <li>10. 介護実習Ⅰ－3ふりかえり 事例の共有</li> <li>11. 実習Ⅱとは 介護実習Ⅱ・Ⅲ（介護実習第2段階・第3段階）で求められる学び</li> <li>12. 介護実習Ⅱに向けて①</li> <li>13. 介護実習Ⅱに向けて②</li> <li>14. 介護実習Ⅱに向けて③</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
・成績評価 70%、出席率 30%						



<p>■教科書</p>
<p>「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「実習要項」日本福祉教育専門学校 介護福祉学科</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目の欠席回数が1/5を超えたとき、原則実習配属しない。</li> <li>・お礼状についての教授回では、便せん、封筒、切手を用意すること。</li> <li>・講義の進捗により講義内容が変更になる場合がある。</li> </ul>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科		4単位	120時間	－	1年・通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	実習	介護実習Ⅰ		学科専任		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>6月～7月：計5日間（週1日/開始・終了時間は各施設に一任）</p> <p>9月：連続4日</p> <p>11月～12月：計6日間 （週1日/開始・終了時間は各施設に一任）</p> <p>実習施設：小規模多機能型居宅介護事業、認知症対応型共同生活介護事業、特定施設入居者生活介護、障害者支援施設、障害者通所施設、介護老人福祉施設、介護老人保健施設など</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>介護・医療の現場を経験した教員による指導</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>多様な介護サービスの場を理解する。</li> <li>利用者の生活体系を理解し、一人ひとりの生活リズムを理解する。</li> <li>コミュニケーション技術を活用して、利用者や家族、職員と円滑なかかわりがもてる。</li> <li>地域社会における施設・事業所の役割を学ぶ。</li> <li>対人援助者として、自己を客観視する。</li> </ol>						
<b>■授業計画（実習の流れ）</b>						
<p>介護実習Ⅰの準備等は「介護総合演習Ⅰ」で行なう。</p> <p>施設の实習内容、予定に沿って進める。日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す。</p> <p>多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解する。対象者の生活と地域の関わりや地域で支える施設・機関の役割を理解する。</p>						
<b>■成績評価</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>自己評価の視点 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習目標及び自身が設定した実習課題は達成されたか</li> <li>利用者とのような関わりをもつことができたか</li> <li>自分自身の変化を理解できたか</li> </ol> </li> <li>施設における評価 <p>介護福祉士としての適正に欠けている。または専門職を志す者として重大な問題を抱えている判断せざるを得ない学生については、施設実習担当者と担当教員とで教義する。</p> </li> <li>学校における評価</li> </ol>						

<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 実習先からの評価</li> <li>2) 実習巡回の際の所見</li> <li>3) 出席状況</li> <li>4) 実習後のスーパービジョン</li> <li>5) 記録</li> </ul> <p>などから総合的に行なう</p>
<p>■教科書</p> <p>なし</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>なし</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科		4単位	120時間	－	1年・通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	実習	介護実習Ⅱ		学科専任		
<b>■授業のねらい</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</li> <li>2. 利用者の課題を明確にし、介護過程を展開するための情報収集が適切にできる。</li> </ol>						
<b>■授業の方法</b>						
実習期間：2月～3月 （開始・終了時間は各施設に一任）計15日間 実習施設：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者入所施設など						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護・医療の現場を経験した教員による指導						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設・事業所における利用者の生活の質について考え、介護者の役割を理解する。</li> <li>2. 利用者の生活リズムを把握し、介護者としての関わりを理解する。</li> <li>3. 生活場面における支援を、その根拠と原則を踏まえて実施できる。</li> <li>4. 多職種の役割を理解し、連携の在り方を学ぶ。</li> <li>5. 自己の介護福祉士としての課題を発見する。</li> <li>6. 「介護過程の展開」における情報収集を行なうことができる。</li> </ol>						
<b>■授業計画</b>						
実習の流れ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実習Ⅱの準備等は「介護総合演習Ⅰ」で行なう。</li> <li>2. 施設の実習内容、予定に沿って進める。</li> <li>3. 日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す。</li> <li>4. 介護過程を展開するための情報収集を実践するにあたり指導者の指導を受ける。</li> <li>5. 多職種協働の中で介護福祉士としての役割を理解する。サービス担当者会議やサースカンファレンス等を通じて多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。</li> <li>6. 担当教員の巡回時に指導を受ける。</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己評価の視点               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目標及び自身が設定した実習課題は達成されたか</li> <li>2) 利用者とのような関わりをもつことができたか</li> <li>3) 自分自身の変化を理解できたか</li> </ol> </li> <li>2. 施設における評価</li> </ol>						

<p>1) 実習評価は当校実習評価表に基づいて行なう。</p> <p>評価基準：</p> <p>4. 十分到達    3. 到達    2. 少し努力が必要    1. かなり努力が必要    0. 不可</p> <p>2) 実習過程において、自習生の利用者への関わり方の具体的な内容を評価する。</p> <p>3) 反省会での自己評価、自習中および実習後のスーパービジョン、実習記録、利用者の反応などを参考にする。</p> <p>4) 介護福祉士としての適正に欠けていたり、専門職を志す者として重大な問題を抱えていると判断せざるを得ない学生については、施設実習担当者と担当教員とで協議する。</p> <p>3. 学校における評価</p> <p>1) 実習先からの評価</p> <p>2) 実習巡回の際の所見</p> <p>3) 出席状況</p> <p>4) 実習後のスーパービジョン</p> <p>5) 記録</p> <p>などから総合的に行なう</p>
<p>■教科書</p> <p>なし</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>なし</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科 1 クラス		2 単位	30 時間	15 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必須	講義	発達と老化の理解 I		八子 久美子		
<b>■授業のねらい</b>						
人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解しライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を修得する。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書や補助資料、パワーポイントを用いた講義とする。人間の成長・発達については、自分自身に当てはめて考える。また高齢者支援に関する事例などから、理解を深めていく。 授業の振り返りを、小テストで行い、適宜[確認テスト]で知識の定着を確認する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
訪問看護ステーションで8年の看護師の実務経験から在宅で暮らす高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を伝え、ライフステージごとの特徴への理解を深めていく。内容によっては老年学の視点を取り入れていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
人間の成長と発達の基礎理解						
① ピアジェ、エリクソン、ハヴィガースト等代表的な発達理論と発達課題について特徴を答えられる。						
② ライフサイクルの各期（乳幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期）における身体的、心理的、社会的特徴と発達課題や特徴的な疾病について説明できる。						
③ 老化を国内外、生物、心理、社会的モデルや老化説の概要について理解しその特徴について答えられる。						
④ 老年期的人格、尊厳、老いの価値観について理解し、自分の考えを伝えられる。						
老化に伴うこころとからだの変化と生活						
⑤ 老化に伴う身体的、心理的、社会的変化が生活へのどのように影響を及ぼすか答えられる。						
⑥ 高齢者の症状の現れ方の特徴について説明できる。（予備力、回復力、適応力、防衛力、フレイル等）						
<b>■授業計画</b>						
1. オリエンテーション 授業の進め方、評価						
2. 成長・発達の考え方・原則						
3. 発達理論						
4. 身体的機能の成長と発達（自分に当てはめる）						
5. 身体的機能の成長と発達（各段階について理解する）						
6. 人間の発達段階と発達課題						
7. 老年期の特徴と発達課題（老化説）						
8. 老年期の特徴と発達課題 まとめ [確認テスト1]						
9. 地域で暮らす高齢者の理解（体験談等）						
10. 老年期の発達課題（人格と尊厳、価値観）						
11. 老化に伴う身体的な変化と生活と症状の現れ方①（脳神経系、循環器系、呼吸器系）						
12. 老化に伴う身体的な変化と生活②（消化器、腎泌尿器系）						

<p>13. 老化に伴う心理的な変化と生活 [確認テスト2]</p> <p>14. 老化に伴う社会的な変化と生活</p> <p>15. 定期試験</p>
<p>■成績評価</p> <p>出席率 40% 定期試験 60%</p> <p>※出席率と課題提出や確認テストを含む</p>
<p>■教科書</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>老化に伴う心身の変化への理解は「こころとからだのしくみ I」の医学的基礎知識と連動させてください。</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科 2 クラス		2 単位	30 時間	15 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	発達と老化の理解 I		金城 隆		
<b>■授業のねらい</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の成長・発達についての基礎的な知識を学ぶ</li> <li>・ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病を学ぶ</li> <li>・老年期の特徴と発達課題について学ぶ</li> <li>・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化、生活への影響を学ぶ</li> </ul>						
<b>■授業の方法</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及びレジュメを使用した講義</li> <li>・各分野ごとにミニテストを実施</li> <li>・状況により動画による視聴授業も取り入れる</li> </ul>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>看護師取得後、病院・福祉施設に 10 年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。人間の成長・発達・老化について、実際の事例を交えて講義する。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の成長・発達の要因・影響するものが答えられる</li> <li>・ライフステージごとの発達課題が答えられる</li> <li>・老年期における身体・心理・社会的問題が答えられる</li> <li>・老化における変化、老化に伴う生活への影響が答えられる</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成長・発達の考え方 成長・発達の原則・法則 成長・発達に影響する要因</li> <li>2. 発達理論</li> <li>3. 発達段階と発達課題</li> <li>4. 身体的機能の成長と発達</li> <li>5. 心理的機能の発達</li> <li>6. 社会的機能の発達</li> <li>7. 老年期の定義</li> <li>8. 老化とは</li> <li>9. 老年期の発達課題</li> <li>10. 老年期をめぐる今日的課題</li> <li>11. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響</li> <li>12. 老化にともなう心理的な変化と生活への影響</li> <li>13. 老化にともなう社会的な変化と生活への影響</li> <li>14. 試験対策</li> </ol>						



15. 定期試験
<b>■成績評価</b> 筆記試験 80% ・ 出席状況 20%
<b>■教科書</b> 「最新・介護福祉士養成講座 12巻 発達と老化の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b> ・ 状況により対面授業から動画視聴授業に変更する場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科1クラス		2単位	30時間	15回	1年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	発達と老化の理解Ⅱ		八子 久美子		
<b>■授業のねらい</b>						
高齢者と健康に関する概念を理解し高齢者に多く起こりやすい症状・疾患と生活根の影響とその支援に必要な基礎知識を修得する。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書や補助資料、パワーポイントを用いた講義とする。身近な事例などから、理解を深めていく。高齢者に多い疾患・症状についてグループ分けし自ら調べ、発表していく方法をとる。授業の復習として小テストを行い、適宜、[確認テスト]を行うことで知識の定着を確認していく。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
訪問看護ステーションで8年の看護師の実務経験から在宅で暮らす高齢者に多い疾患・症状について生活の留意点が理解できるように教授する。また在宅で暮らす高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を理解できる事例を講義に取り入れる。内容によっては老年学の視点を取り入れる。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
①サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、サクセスフルエイジングについて説明できる。 ②高齢の症状・疾患の特有な症候について説明できる。 ③高齢者に多い疾患・症状の概要、原因、症状、治療について答えられる。 ④高齢者に多い疾患・症状の日常生活への影響と留意点について説明できる。 ⑤人生100年時代到来、自分の人生設計について考え、伝えられる。 ⑥グループワークの一員としての自覚と役割を果たし、共同して成果物を作成することができる。						
<b>■授業計画</b>						
1. オリエンテーション 授業の進め方、評価 前期復習 2. 老化に伴う心理的变化と生活への影響①(認知機能の低下) 3. 老化に伴う心理的变化と生活への影響②(ライチャードの5つの分類、自己肯定感) 4. 高齢者と健康 日本人の死因や介護が必要となった原因 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格・筋肉系①) 5. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格・筋肉系②) 6. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳・神経系①)[確認テスト1] 7. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(筋系、脳神経系②) 8. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(皮膚・感覚器系) 9. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(循環器系) 10. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(呼吸器系) 11. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(消化器系・悪性腫瘍) 12. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(精神疾患)熱中症、脱水症、貧血[確認テスト2] 13. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(熱中症、脱水症、貧血) 14. 多職種連携 まとめ						

15. 定期試験
<p>■成績評価</p> <p>出席率 40% 定期試験 60%</p> <p>※出席率とは課題提出や確認テストを含む</p>
<p>■教科書</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>老化に伴う心身の変化への理解は「こころとからだのしくみ I」の医学的基礎知識と連動させてください。 感染状況によっては、授業方法を感染防止に留意した方法をとる場合があります。</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科 2 クラス		2 単位	30 時間	15 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	発達と老化の理解Ⅱ		金城 隆		
<b>■授業のねらい</b>						
・高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を学習する。						
<b>■授業の方法</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及びレジュメを使用した講義</li> <li>・各分野ごとにミニテストを実施</li> <li>・状況により動画による視聴授業も取り入れる</li> </ul>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。高齢者の健康に対する考え方・疾病及び症状など、実際の事例を交えて講義する。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康長寿に向け、知識を基にした自分の意見が述べられる。</li> <li>・高齢者の症状・疾患の特徴が答えられる。</li> <li>・高齢者に多い症状・疾患、それらによる日常生活への影響及び対応方法が答えられる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康長寿に向けての健康</li> <li>2. 高齢者の症状・疾患の特徴</li> <li>3. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（骨格系・筋系）</li> <li>4. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（脳・神経系）</li> <li>5. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（皮膚・感覚器系）</li> <li>6. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（循環器系）</li> <li>7. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（消化器系）</li> <li>8. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（腎・泌尿器系）</li> <li>9. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（内分泌・代謝系）</li> <li>10. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（歯・口腔疾患）</li> <li>11. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（悪性新生物）</li> <li>12. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（感染症）</li> <li>13. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（精神疾患・その他） 保健医療との連携</li> <li>14. 試験対策</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
筆記試験 80%・出席状況 20%						

<b>■教科書</b>
「最新・介護福祉士養成講座 12巻 発達と老化の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
・状況により対面授業から動画視聴授業に変更する場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科 1 クラス		2 単位	30 時間	15 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必須	講義	認知症の理解 I		八子 久美子		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>近年加速する少子高齢化、平均寿命の延長により、2025 年に向けて認知症は 5 人に 1 人と推測され、ますます増加傾向にある。現在の認知症を取り巻く状況のなかで、認知症ケアの、理念や倫理のもと、理論を理解し実践しなければならない。認知症の人の生活課題や生活を支援するための根拠として、認知症に関する医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患や症状の特性など基本的事項を理解できるようにする。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>医学的な基礎知識は授業毎小テストを行い、理解度を確認する[確認テスト]を行っていく。 講義や視聴覚教材、事例(実習)などを用いて、認知症の病気やその特徴の理解を深めていくためグループワークを取り入れる。</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>訪問看護ステーションでの実務経験から、認知症の人の特性を踏まえて基礎知識を教授する。また認知症の人の暮らし方、関わり方などを紹介する。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<p>① 認知症を取り巻く歴史的背景や施策を踏まえた、認知症のある人の現状と課題を理解し、認知症ケアの理念、倫理について説明できる。 ② 認知症ケアの根拠となる認知症の原因、診断、治療をタイプ別に説明できる。 ③ 認知症ケアの根拠となる認知症の中核症状や認知症の行動・心理症状（BPSD について説明できる。 ④ 地域で暮らす認知症の人やその家族への政策や介護職の役割が説明できる。 ⑤ 認知症の特性に応じた適切なコミュニケーション方法の基本について考え、説明できる。</p>						
<b>■授業計画</b>						
<p>1. オリエンテーション 認知症とは何か（何を、どう学ぶのか） 2. 認知症とは何か、認知症ケアの歴史 3. 認知症とは何か（定義、生活障害、症状） 4. 脳のしくみ①（認知症の病理） 5. 脳のしくみ②（認知症とせん妄、うつ病、老化との関係） 6. 認知症の人の心理 7. 中核症状の理解 8. 中核症状と BPSD [確認テスト 1] 9. 認知症の診断と重症度 10. 認知症の原因疾患と症状・生活障害① アルツハイマー型認知症、血管性認知症 11. 認知症の原因疾患と症状・生活障害② 前頭側頭型認知症 レビー小体型認知症等 12. 認知症の治療薬</p>						

<p>13. 認知症の人の地域での暮らし [確認テスト2]</p> <p>14. 認知症の理解まとめ</p> <p>15. 定期試験</p>
<p>■成績評価</p> <p>出席率 40% 定期試験 60%</p> <p>※出席率に提出物や確認テストが含まれる。</p>
<p>■教科書</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解」中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>認知症の理解は「こころとからだのしくみⅠ」の脳・神経系の医学的基礎知識と「発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ」の老化の知識と連動させ理解を深めてください。</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科 2 クラス		2 単位	30 時間	15 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	認知症の理解 I		金城 隆		
<b>■授業のねらい</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症ケアを適切に実践していくため、認知症の基礎的知識（定義・診断基準・脳のしくみ・心理）を学習する。</li> <li>・ 認知症の症状（中核症状・生活障害・BPSD）、原因疾患の特徴・生活障害、検査・治療薬・予防について学習する。</li> </ul>						
<b>■授業の方法</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキスト及びレジュメを使用した講義</li> <li>・ 各分野ごとにミニテストを実施</li> <li>・ 状況により動画による視聴授業も取り入れる</li> </ul>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>看護師取得後、病院・福祉施設に 10 年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。認知症利用者の症状やケアを、事例を交え講義する。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症とは何か、診断基準や症状・脳のしくみなどの知識を基に説明できる。</li> <li>・ 認知症の原因疾患の特徴が答えられて、それぞれの対応方法を考えることができる。</li> <li>・ 認知症の予防について考えて自分の意見を述べるができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症とは何か</li> <li>2. 脳のしくみ</li> <li>3. 認知症の人の心理</li> <li>4. 中核症状の理解</li> <li>5. 生活障害の理解</li> <li>6. BPSD の理解</li> <li>7. 認知症の診断</li> <li>8. 認知症の原因疾患と症状・生活障害（アルツハイマー型認知症）</li> <li>9. 認知症の原因疾患と症状・生活障害（血管性認知症）</li> <li>10. 認知症の原因疾患と症状・生活障害（レビー小体型認知症）</li> <li>11. 認知症の原因疾患と症状・生活障害（前頭側頭型認知症・治療可能な認知症）</li> <li>12. 認知症の原因疾患と症状・生活障害（若年性認知症・その他）</li> <li>13. 認知症の治療薬・認知症の予防について</li> <li>14. 試験対策</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
筆記試験 80%・出席状況 20%						



<b>■教科書</b>
「最新・介護福祉士養成講座 13巻 認知症の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
・状況により対面授業から動画視聴授業に変更する場合がある。

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	1 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	障害の理解 I		齊藤 美由紀		
<b>■授業のねらい</b>						
「障害」とは何か。障害の定義や種類、障害福祉における基本理念を学び、その支援を担う専門職としての役割を理解する。また、障害をもつ人の心理や生活を理解し、障害福祉制度やサポート体制、自立に向けた支援の方法について学ぶ。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書や配布プリントに沿って授業を進める。また、グループワークや発表も積極的に取り入れる。本科目では、身体障害や視覚障害、精神障害をもつ人など、数名の当事者をゲストスピーカーとしてお招きし、より身近に障害をもつ人の生活を理解できるよう、授業を展開する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた様々な経験を通し、実際の事例を交えながらの講義とする。また、理想論だけでなく現実論も重視し、学んだ知識を介護実践においてどのように活かしていくのか、学生がより深くイメージできるよう授業を進めていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の定義と障害の種類について説明できる。</li> <li>・ 障害福祉の基本理念について説明できる。</li> <li>・ 障害をもつ人の生活や心理について理解する。</li> <li>・ 障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて説明できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 障害の概数</li> <li>3. 障害の概念</li> <li>4. 合理的配慮とは</li> <li>5. 障害者の定義</li> <li>6. 視覚障害への理解（外部講師）</li> <li>7. 障害福祉の基本理念① ノーマライゼーション／リハビリテーション</li> <li>8. 障害福祉の基本理念② ソーシャルインクルージョン／ストレングス</li> <li>9. 障害福祉の基本理念③ エンパワメント／アドボカシー</li> <li>10. 障害福祉の基本理念④ 国際障害者年／障害者権利条約</li> <li>11. 精神障害への理解（外部講師）</li> <li>12. 障害者差別解消法／障害者虐待防止法／障害者の就労支援</li> <li>13. 障害者福祉制度と介護保険制度</li> <li>14. 今講義まとめ</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期試験（70%）、出席率（30%）						

<b>■教科書</b>
介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
講義の進捗とゲストスピーカーの都合により、講義内容が変更になる場合がある。 ゲストスピーカー来校時は、感想・考察等のレポート提出も予定している。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科1クラス		2単位	30時間	15回	1年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必須	講義	こころとからだのしくみI		八子 久美子		
<b>■授業のねらい</b>						
介護を必要とする人の生活支援を行うために求められる観察力、判断力、技術の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能、様々な疾患についての基本的な知識を修得する。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書やプリント、パワーポイント等を用いた講義、より理解を深めるために、視聴覚教材を使用する。できるだけ自分の心や体として感じられるように授業をすすめていく。授業の振り返りを豆テストでほぼ毎回行い、適宜〔確認テスト〕を行なうことで、知識を定着させる。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで8年の訪問看護や介護支援専門員としての実務経験を生かし、まず健康であるためのこころとからだのしくみの理解を深める。さらに介護現場で出会う疾患に関する基礎知識を生活との関連で理解できるよう事例を紹介したり、学生自ら考える機会を作り授業を進めていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<p>① 人間の基本的欲求や社会的欲求についてマズローの欲求階層説を理解し、生活支援者の視点で説明できる。</p> <p>② 人間のこころのしくみ（思考、学習、動機づけ、適応機制等）について脳とこころの関係で説明できる。</p> <p>③ 人体各部の名称、体を構成している各器官の構造や機能について答えられる。</p> <p>④ 介護福祉士として、こころとからだのしくみに興味をもち、生活支援には必要な知識であると理解でき、その内容を他者に説明できる。</p>						
<b>■授業計画</b>						
<p>1. オリエンテーション こころとからだのしくみを学ぶ必要性を理解する。健康の定義</p> <p>2. こころのしくみ①こころの正体とは何か（認知・考え方・価値観・感情）</p> <p>3. こころのしくみ②人間とはどのような存在か （自己概念、アイデンティティ、パーソナリティ、その人らしさ）</p> <p>4. こころのしくみ③人間は何を求めて生きるのか（マズローの欲求5段階説）</p> <p>5. こころのしくみ④脳とこころの関係（学習・記憶・思考のしくみ）</p> <p>6. こころのしくみ⑤自分のこころを守るメカニズムを知る（適応機制）</p> <p>7. こころのしくみ⑥〔確認テスト1〕 からだのしくみ①自分のからだの構成と機能</p> <p>8. からだのしくみの② 専門職として知っておかなければならないからだの使い方 （ボディメカニクス・関節可動域）</p> <p>9. からだのしくみ③からだが元気であるしくみ（恒常性の維持機能）</p> <p>10. からだのしくみ④私たちの活動を支える司令塔（神経系、脳）</p> <p>11. からだのしくみ⑤私たちの活動を支える司令塔（神経系、自律神経）</p>						

- 12. からだのしくみ⑥私たちの活動を支える物流システム（循環器のしくみ）
- 13. からだのしくみ⑦〔確認テスト2〕私たちの活動を支える（呼吸器のしくみ）
- 14. こころとからだのしくみ 総合的なまとめ
- 15. 定期試験

■成績評価

出席率 40% 定期試験 60%  
 ※出席率とは(課題提出や確認テストを含む)

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規

■履修にあたっての留意点、その他

専門用語が多いため、予習、授業参加、復習の積み重ねが必要な科目です。  
 科目「生活支援」と連動させるため、授業内容順番が変更される場合があります。

年度	学 科	単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科2クラス	2単位	30時間	15回	1年・半期
必修・選択	種別	科目名		担当教員	
必修	講義	こころとからだのしくみI		大谷 修	
■授業のねらい					
<p>人間の心と体のしくみとその変化を観察して介護実践に活かすための基礎知識を身につける。また、「介護に必要な周辺知識」を学び、「専門知識・技術の活用力」、「他職種連携・協調力」、「主体的・自立的に意欲を持って行動・実行する態度」を身につける（カリキュラムポリシー curriculum policy 教育課程編成・実施方針）</p>					
■授業の方法					
<ol style="list-style-type: none"> <li>「学修指針」（コマシラバス）（別に配布する）に従って授業を進める。</li> <li>レジュメ（résumé, handout）を配布する。</li> <li>グループディスカッション、動画の視聴なども適宜行う。</li> <li>確認テスト問題を授業開始時に配布し、終了前に解説する。</li> </ol>					
■実務経験と授業内容への活用					
<p>医師としての実務経験と大学における医学教育（主として解剖学）の経験および理学療法学科、柔道整復学科、言語聴覚療法学科等における教育の経験を授業内容に活用する。</p>					
■授業終了時の到達課題（到達目標）					
<ol style="list-style-type: none"> <li>健康とは何かを概説できる。</li> <li>体の部位名、内臓および骨の名称を日本語で述べるができる。</li> <li>人はなぜ病気になるのかを説明できる。</li> <li>こころの仕組みを概説できる。</li> <li>からだの仕組みを概説できる。</li> </ol>					
■授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション orientation、「健康」とは何か？ からだの部位・骨・内臓の名称</li> <li>人間の欲求と自己実現</li> <li>自己実現と尊厳</li> <li>細胞のしくみ、ニューロン neuron のしくみ</li> <li>中枢神経（脳と脊髄）と末梢神経</li> <li>認知と学習・記憶・思考のしくみ</li> <li>感情・情動、意欲・動機づけ、および適応のしくみ</li> <li>眼と平衡聴覚器の位置・構造・機能</li> <li>嗅覚器、味覚器、皮膚の位置・構造・機能</li> <li>呼吸器と循環器の位置・構造・機能</li> <li>消化器系と泌尿器系の位置・構造・機能</li> <li>生殖器系・内分泌系の位置・構造・機能</li> <li>体液・血液・リンパの構成と機能、心身の調和とホメオスタシス homeostasis、およびバイタルサイン</li> </ol>					

<p>ヴァイタルサイン vital sign</p> <p>14. 総復習問題による科目全体の振り返りと知識の深化と整理</p> <p>15. 定期試験</p>
<p>■成績評価</p> <p>多肢選択問題 (multiple choice) による定期試験 100%。</p>
<p>■教科書</p> <p>介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>このシラバスには授業の全般的な目標と概要のみ記載しています。各授業の到達目標 (学生さんに学んでほしいこと) は、別に配布する「学習指針」(コマシラバス) に詳しく記載しました。「学修指針」は予習と復習に活用するのみでなく、授業でも使用しますので、毎回持参して下さい。授業で配布された資料は、復習しやすいようにファイルして整理しましょう。</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科1クラス		4単位	60時間	30回	1年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	こころとからだのしくみⅡ		八子 久美子		
<b>■授業のねらい</b>						
生活支援を行う際、その場面に応じたこころとからだのしくみの理解及び、機能低下や障害が及ぼす影響についての基本的な知識を修得する。介護福祉士として、安心、安全、その人らしい生活支援技術を提供する根拠となる知識を身につける。						
<b>■授業の方法</b>						
教科書やプリント、パワーポイント用いた講義、より理解を深めるために、視聴覚教材を使用する。できるだけ自分の心や体として感じられるように授業をすすめていく。身につけた知識をどう生かすのか考える機会をグループワーク等で行う。各授業の振り返りの豆テストで実施し、適宜[確認テスト]を行なうことで、知識を定着させる。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで8年の看護師の実務経験がある。特に訪問看護での看護師、介護支援専門員の経験から、その人らしさ、自立支援に向けた生活支援に必要とされる医学的知識と、多職種との連携の重要性を事例や現状施設の取り組みなどから伝える。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
移動、みじたく、食事、排泄、入浴、保清に関連したこころとからだのしくみについて①～④を到達目標とする。						
① それぞれのケアに関連したからだの構造や機能に関する医学的基礎知識を説明できる。						
② それぞれのケアに関連した心身機能低下や疾患による影響について説明できる。						
③ それぞれのケアに関する変化の気づきや観察のポイント、適切な対応方法について考え伝えられる。						
④ 移動、みじたく、食事、排泄、入浴、保清に関連したこころとからだのしくみを理解して、利用者の生活の質向上に向けての多職種連携について説明できる。						
<b>■授業計画</b>						
1・2 オリエンテーション 前期復習						
3・4 移動に関連したこころとからだのしくみ① (移動のしくみの理解 骨格系、関節系)						
5・6 移動に関連したこころとからだのしくみ② (移動のしくみの理解 筋肉系)						
7・8 移動に関連したこころとからだのしくみ③ (心身の機能低下が移動に及ぼす影響)						
9・10 移動に関連したこころとからだのしくみ④ (医療職との連携ポイント まとめ)						
11・12 みじたくに関連したからだのしくみ [確認テスト] 食事に関連したこころとからだのしくみ① (摂食・嚥下のしくみ)						
13・14 食事に関連したこころとからだのしくみ②						



<p>(栄養)</p> <p>15・16 食事に関連したところとからだのしくみ③ (心身機能低下が食事に及ぼす影響 まとめ)</p> <p>17・18 排泄に関連したところとからだのしくみ① [確認テスト] (便排出のしくみ 消化器機能低下に伴う排便障害)</p> <p>19・20 排泄に関連したところとからだのしくみ② (排尿のしくみ 膀胱尿道機能低下に伴う排尿障害) グループワーク</p> <p>21・22 排泄に関連したところとからだのしくみ③ (医療職との連携 まとめ)</p> <p>23・24 入浴、清潔に関連したところとからだのしくみ①[確認テスト] (皮膚、発汗のしくみ 入浴効果)</p> <p>25・26 入浴、清潔に関連したところとからだのしくみ② (心身の機能低下が、入浴・清潔保持に及ぼす影響)</p> <p>27・28 入浴、清潔に関連したところとからだのしくみ③ (入浴時の観察ポイント まとめ)</p> <p>29・30 後期のまとめ 定期試験</p>
<p>■成績評価</p> <p>出席率 40% 定期試験 60%</p> <p>※出席率とは課題提出や確認テストを含む</p>
<p>■教科書</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座 11 ところとからだのしくみ」中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>専門用語が多いため、予習、授業参加、復習の積み重ねが必要な科目です。 「生活支援技術」の基礎知識、「介護過程」のアセスメントに必要となる知識という位置づけがあります。</p>

年度	学 科	単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科 2 クラス	4 単位	60 時間	30 回	1 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員	
必修	講義	こころとからだのしくみⅡ		大谷 修	
<b>■授業のねらい</b> 人間の心と体の構造と機能の変化を観察して介護実践に活かすための基礎知識を身につける。また、「介護に必要な周辺知識」を学び、「専門知識・技術の活用力」、「他職種連携・協調力」、「主体的・自立的に意欲を持って行動・実行する態度」を身につける（カリキュラムポリシー curriculum policy 教育課程編成・実施方針）					
<b>■授業の方法</b> 1. 「学修指針」（コマシラバス）（別に配布する）に従って授業を進める。 2. レジюме（résumé, handout）を配布する。 3. グループディスカッション、動画の視聴なども適宜行う。 4. 確認テスト問題を授業開始時に配布し、終了前に解説する。					
<b>■実務経験と授業内容への活用</b> 医師としての実務経験と大学における医学教育（主として解剖学）の経験および理学療法学科、柔道整復学科、言語聴覚療法学科等における教育の経験を授業内容に活用する。					
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b> 1. 移動に関連したこころとからだのしくみを説明できる。 2. 身じたくに関連したこころとからだのしくみを説明できる。 3. 食事に関連したこころとからだのしくみを説明できる。 4. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを説明できる。 5. 排泄に関連したこころとからだのしくみを説明できる。					
<b>■授業計画</b> 1. 人はなぜ移動するか（姿勢保持と重心の位置・良肢位） 2. 骨と関節の位置・形態・作用 3. 主な骨格筋の位置・形態・作用 4. 移動の介助とボディメカニクス body mechanics 5. 移動の自立・寝返り動作・起き上がる動作・座位保持 6. 歩行のしくみ・車椅子を動かすためのしくみ・筋力・骨の強化 7. 移動と意欲低下・転倒・骨折・廃用症候群・麻痺 8. 移動が不自由になって生じる結果（褥瘡） 9. 移動での観察のポイント 10. 身じたくの意義・身じたくと顔面の構造と機能 11. 身じたくと目の構造と機能 12. 身じたくと耳の構造と機能 13. 身じたくと鼻・爪・毛髪・口の構造と機能					

<p>14. 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響</p> <p>15. 身じたくを支援する際の観察のポイント point</p> <p>16. 人間に必要な栄養素とその働き</p> <p>17. 食事に関連した体のしくみと摂食嚥下運動</p> <p>18. 加齢、疾患、障害による心身の機能低下が食事に及ぼす影響</p> <p>19. 食事での変化の気づきと対応</p> <p>20. 入浴の作用と清潔の効果</p> <p>21. 入浴と皮膚の構造・発汗</p> <p>22. 皮膚の汚れと陰部の清潔</p> <p>23. 心身機能の低下が清潔保持に与える影響</p> <p>24. 入浴に際して必要な観察ポイントと医療職との連携のポイント</p> <p>25. 排泄に必要な行為、尿排出と便排出のしくみ</p> <p>26. 心身機能の低下が尿排泄に及ぼす影響</p> <p>27. 心身機能の低下が便排泄に及ぼす影響</p> <p>28. 排泄の観察、記録、報告</p> <p>29. 総合復習問題による知識の深化と整理</p> <p>30. 定期試験</p>
<p>■成績評価</p> <p>多肢選択問題 (multiple choice) による定期試験 100%。</p>
<p>■教科書</p> <p>介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>このシラバスには授業の全般的な目標と概要のみ記載しています。各授業の到達目標(学生さんに学んでほしいこと)は、別に配布する「学習指針」(コマシラバス)に詳しく記載しました。「学修指針」は予習と復習に活用するのみでなく、授業でも使用しますので、毎回持参して下さい。</p>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	生活と福祉		黒木 豊域		
<b>■授業のねらい</b>						
私たちの生活と社会福祉制度はどのような関わりがあるのか。生活の単位としても家族、地域や組織との関わりの中で、社会福祉制度や援助がなぜ必要となるのか。ライフスタイルの多様性から今後どのような社会福祉援助が必要かを理解し、制度に対する知識を得る。						
<b>■授業の方法</b>						
配布プリントや教科書に沿って進む。またグループ活動と発表も行なう。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
ソーシャルワーカーとしての経験から、個人の問題と見られがちな社会問題を社会の課題として認識する視点を教授する。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
① 人生のライフサイクルの理解の上に、人間の生活を構成する要素を理解することができる。 ② 家族機能の変化、労働環境の変化と生活支援システムや社会福祉の関係が理解でき、必要な社会福祉制度を理解することができる。						
<b>■授業計画</b>						
1. オリエンテーション：授業の進め方について 2. 主体的に生活することと生活の構成要素 3. 家族の定義・形態とその機能 4. 家族の形態・機能と多様性 5. 学校教育の変化と社会福祉（いじめ・不登校） 6. 地域社会と個人とのかかわり（8050 問題） 7. 地域社会の組織と新たなネットワーク（子ども食堂） 8. 現代社会のライフスタイル①（育児と介護） 9. 現代社会のライフスタイル②（労働環境と家庭） 10. ライフスタイルと社会福祉の課題 11. 社会保障制度における要保護性① 12. 社会保障制度における要保護性② 13. 社会保障制度における要保護性③ 14. 生活支援と社会福祉制度の体系 15. 定期試験						
<b>■成績評価</b>						
1. 課題と提出物（30%） 2. クラス発表（10%） 3. 定期試験（60%） 合計 100%とし、A～D の成績評価とする。						

■教科書
介護福祉士養成講座「人間の理解」中央法規
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	社会保障制度		山本 正司		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>社会保障制度の理念と目的及びその方法を理解するとともに、介護福祉士として必要な、わが国の社会保障制度について社会保障制度の知識を得ること。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>教科書やプリントに添って講義を展開する。また中間で理解度テストをおこなうことで制度の理解度を確認する。なお、資料などに関しては、パワーポイントを活用して授業を展開する。</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>福祉事務所における相談援助の経験と介護保険・介護扶助の運用にあたり、地方公共団体で制度運用のシステム創りをした経験から、介護サービスの利用者およびその家族からの介護サービス利用手続き方法を具体的に示すことで、介護保険制度および関連する社会保険制度に対する理解を深める。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会保障制度の理念と目的を理解し、説明することができる。</li> <li>・ 社会保障制度が対象とする問題（要保障性）を理解し、制度を利用するための手段（保険の方法、社会サービス等）や手続きについて説明することができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たちの生活と社会保障制度</li> <li>2. イギリスの社会保障の歴史・救貧法から 1834 年、改正救貧法</li> <li>3. イギリスの社会保障の歴史・リベラルリフォームから福祉国家</li> <li>4. わが国の社会保障制度の歴史・戦前・戦後・被占領期</li> <li>5. わが国の社会保障制度の歴史・国民皆保険・皆年金と日本型福祉社会構想</li> <li>6. わが国の社会保障制度の歴史・社会福祉基礎構造改革</li> <li>7. 社会保険の仕組みを理解する（保険原理を理解し、民間保険と社会保険の違いを理解する）</li> <li>8. 医療保険制度の概要</li> <li>9. 中間のまとめ・理解度テスト</li> <li>10. 年金保険制度の概要</li> <li>11. 雇用保険と労働者災害補償保険の概要</li> <li>12. 介護保険制度の概要</li> <li>13. 社会保険制度と公的扶助の関係</li> <li>14. 21 世紀における社会保障制度の課題</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>①定期試験（90%）</li> <li>②出席状況・授業内での課題（10%）授業の事後学習をすること。</li> </ol>						

<p>■教科書</p>
<p>「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<p>授業の事後学習を必ずすること。(繰り返し、学ぶことにより必要な知識の定着をはかること)      国家試験・過去問題「社会の理解」の過去問題を必ず行うことで、知識の定着を図ることができる。      事後学習の課題(模擬問題)は、必ず行うことにより、国家試験の対策にもなる。</p>



年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		片桐 正善		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>障害とは心身の機能や能力の問題ではない。社会との関係のなかで立ち現れる現象である。すると、障害者とは、差別や偏見や配慮の欠如を含む社会環境によって不利益が集中し、「できなくされている人」と理解される。今日の障害者福祉は、このような「障害の社会モデル」を手掛かりに、私たちの新たな生き方や現代社会の別の在り方を考え直す契機を与えてくれる。この講義では、入所施設を中心として進められてきた障害福祉政策の歴史を踏まえつつ、その後の障害概念の転換や今日の障害者福祉制度を概観する。そのうえで、地域で自立し生きて暮らすために必要な「新たな社会福祉のかたち」について検討する。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>教科書を中心にすえた講義形式の授業を、レジュメを使って展開する。また、進行度合いに応じて講義の妨げにならない範囲で、社会福祉士国家試験の過去問題の解説も行う。</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>主に知的障害者と社会に名指される人たちと地域で生きていくための、現在も継続中の 20 年ほどの実践を踏まえ、契約制度を無条件に礼賛する教科書的な語りに対して、批判的検討を加えていく。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<p>現代の障害者福祉の制度を、歴史的観点から、自分なりに評価することができるようになること。</p>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害の概念と理念</li> <li>2. 障害者の生活実態とニーズ</li> <li>3. 国連・障害者の権利条約と障害者権利保障の歴史</li> <li>4. 障害者福祉の法</li> <li>5～7. 障害者の福祉サービス</li> <li>8. 障害者の福祉と労働</li> <li>9. 障害者の所得保障</li> <li>10. 障害者の社会生活参加</li> <li>11. 障害児の福祉サービス</li> <li>12. 障害福祉の整備計画と障害者運動</li> <li>13. 障害者福祉現場で働く職員</li> <li>14. 障害福祉の相談支援と臨床事例の検討</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
<p>講義への出席を加味した平常点 10%、定期試験の成績 90%にて評価する。</p>						



■教科書
なし。すべての回でレジメを使う。
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		4 単位	60 時間	30 回	2 年 ・ 通 年
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	介護の基本Ⅲ		細野 真代		
<b>■授業のねらい</b>						
介護福祉士の基本となる理念、専門職としての専門性と職業倫理について理解する。介護福祉を必要とする人の地域生活を支援する観点から、生活を支援するサービスと制度、生活をささえるしくみについて理解を深める。						
<b>■授業の方法</b>						
学びの共有の時間にするため、グループワークを取り入れた講義を行う。適宜 DVD など視聴覚教材を用いる。実際に現場で働く介護福祉士及び専門職による講義なども行う。 ※学外学習を取り入れることもある。学期の中間で試験を実施する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士養成校にて資格取得後、介護老人保健施設、介護療養病床等で 10 年程度勤務。福祉施設での介護実務経験をもとに、基本的な介護技術と、現場で勤務する上で必須と思われる介護における着眼点について教授する						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の尊厳を保持した倫理的介護の判断ができる。</li> <li>・ 介護を必要とする人の生活ニーズの多様性についてその背景を説明できる。</li> <li>・ 多職種協働にかかわる専門職の役割を説明できる。</li> <li>・ 高齢者のためのフォーマルサービスの種類と特徴を説明できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1・2 介護の基本Ⅰ・Ⅱの復習 介護の基本Ⅲのオリエンテーション 3・4 介護福祉を必要とする人の理解 5・6 利用者の生活を支えるしくみ 7・8 生活を支えるフォーマルサービス 9・10 介護保険制度における居宅サービス① 11・12 介護保険制度における居宅サービス② 13・14 介護保険制度における居宅サービス③ 15・16 中間試験 17・18 介護保険制度における施設サービス 19・20 介護保険制度における地域密着型サービス① 21・22 介護保険制度における地域密着型サービス② 23・24 障害者のためのフォーマルサービス① 25・26 障害者のためのフォーマルサービス② 27・28 生活を支えるインフォーマルサービス 29・30 振り返り、定期試験						

<p>■成績評価</p>
<p>定期試験（中間試験含む）80%、出席状況 20%</p>
<p>■教科書</p>
<p>最新介護福祉養講座 3 中央法規「介護の基本Ⅰ」      最新介護福祉養講座 4 中央法規「介護の基本Ⅱ」      「見て覚える国試ナビ 2022」 中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<p>授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科		4 単位	60 時間	30 回	2 年・通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	介護の基本Ⅳ		細野 真代		
<b>■授業のねらい</b>						
介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である介護を必要とする人の理解と生活を継続するためのしくみ、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を学ぶ。						
<b>■授業の方法</b>						
学びの共有の時間にするため、グループワークを取り入れた講義を行う。適宜 DVD など視聴覚教材を用いる。実際に現場で働く介護福祉士及び専門職による講義なども行う。 ※学外学習を取り入れることもある。学期の中間で試験を実施する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士養成校にて資格取得後、介護老人保健施設、介護療養病床等で 10 年程度勤務。福祉施設での介護実務経験をもとに、基本的な介護技術と、現場で勤務する上で必須と思われる介護における着眼点について教授する						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者のためのフォーマルサービスの種類と特徴を説明できる。</li> <li>・ 地域連携の意義とかかわる組織・団体の役割について説明できる。</li> <li>・ 介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性について述べることができる。</li> <li>・ 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について述べることができる。</li> <li>・ 介護従事者の心身の健康管理の必要性とその対策方法について説明できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1・2 介護の基本Ⅲ振り返り 3・4 地域連携 5・6 多職種連携・協働の必要性と求められる基本的能力 7・8 協働する多職種の役割と機能 9・10 介護における安全の確保 11・12 リスクマネジメントとは何か 13・14 事故防止のための対策 15・16 中間試験 17・18 事故防止のための対策 19・20 感染症対策 21・22 感染症対策 23・24 介護従事者の心身の健康管理 25・26 介護従事者の労働環境の整備 27・28 2年間の総まとめ 29・30 定期試験対策、定期試験						

<p>■成績評価</p>
<p>定期試験（中間試験含む）80%、出席状況 20%</p>
<p>■教科書</p>
<p>最新介護福祉養講座 3 中央法規「介護の基本Ⅰ」          最新介護福祉養講座 4 中央法規「介護の基本Ⅱ」          「見て覚える国試ナビ 2022」 中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<p>授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。</p>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	コミュニケーション技術Ⅱ		黒木 豊域		
<b>■授業のねらい</b>						
さまざまな障害のある利用者とコミュニケーションに関する知識と家族、および介護におけるチーム・コミュニケーションを学習する。						
<b>■授業の方法</b>						
配布プリントや教科書に沿って進む。またグループ活動と発表も行なう。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
①様々な障害のある利用者の特性に応じたコミュニケーションについての知識を学び、応用できる。 ②利用者を介護するパートナーとして、家族との関係を築くことができる。 ③チームの中での介護を展開するために必要なコミュニケーションツールとして、報告・連絡・相談ができ、記録を書く力と会議を推進する力を身につける。						
<b>■授業計画</b>						
1. オリエンテーション：授業の進め方について 2. コミュニケーション障害のポイント アセスメント 3. 感覚器損傷によるコミュニケーション障害がある方への介護の工夫1 4. 感覚器損傷によるコミュニケーション障害がある方への介護の工夫2 5. 感覚器損傷によるコミュニケーション障害がある方への介護の工夫3 6. 脳損傷によるコミュニケーション障害 7. 脳損傷によるコミュニケーション障害がある方への介護の工夫1 8. 認知症の方とのコミュニケーション1 9. 認知症の方とのコミュニケーション2 10. その他の障害がある方とのコミュニケーション 11. 家族への助言・指導・調整 12. チーム間のコミュニケーション 13. 記録の技術 14. グループ発表 15. 定期試験						
<b>■成績評価</b>						
1. 課題・提出物（30％） 2. クラス発表（10％） 3. 定期試験（60％） 合計100％とし、A～Dの成績評価とする。						

<b>■教科書</b>
最新・介護福祉養成校座5『コミュニケーション技術』（中央法規）
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
なし

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		3 単位	90 時間	45 回	2 年 ・ 通年
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	生活支援技術Ⅲ		中島 たまみ・宮里 裕子		
<b>■授業のねらい</b>						
利用者 1 人ひとりの生活状態を的確に把握し、利用者の多様なニーズに合わせた生活支援の知識と技術を修得し、実践を展開できる能力を身につける						
<b>■授業の方法</b>						
教科書、プリント資料及び視聴覚教材を用いながら進める。グループで演習し、技術力を高める。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士として長年介護現場で勤めてきた教員による介護現場を踏まえた実技演習とする。高齢者・障がい者・施設系・在宅支援と各サービス種別で介護業務に携わってきたことで、種別ごとの介護現場や、実際の事例を用いた講義とする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移乗・着脱・排泄・食事・入浴の生活支援技術が提供できる。</li> <li>・ 1 人ひとりのその人らしい生活環境を組み立てられる。</li> <li>・ 1 人ひとりの能力の応じた介護支援を計画でき実践できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1・2・3 オリエンテーション・振り返り 4・5・6 ベッド上での着脱介助① 7・8・9 ベッド上での着脱介助② 10・11・12 実技試験① 13・14・15 ベッド上でのオムツ交換介助① 16・17・18 ベッド上でのおむつ交換介助② 19・20・21 ベッド上での食事介助③ 22・23・24 実技試験② 25・26・27 人生の最終段階における介護 28・29・30 人生の最終段階における介護 31・32・33 事例検討 34・35・36 実技試験③ 37・38・39 入浴と清拭介助① 40・41・42 入浴と清拭介助② 43・44・45 入浴と清拭介助③ 定期試験						
<b>■成績評価</b>						
定期試験 筆記試験 40% 実技試験 40% 出席状況 20%						



<b>■教科書</b>
最新介護福祉士養成講座 6・7・8 中央法規「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 中央法規「介護福祉士国試ナビ 2022」
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科	単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科	2 単位	60 時間	30 回	2 年 ・ 通年
必修 ・ 選択	種 別	科 目 名		担 当 教 員	
必修	演 習	生活支援技術Ⅳ		中島 たまみ ・ 藤原 記代子	
<b>■授業のねらい</b>					
<p>疾病や障害を持つ利用者に、介護福祉士が果たすべき役割を学ぶ。</p> <p>利用者とその家族が、安全で、安心できる日常生活を送ることができるよう、医療者との連携もふまえ具体的な生活支援方法を習得する。</p> <p>生活を支える視点で、食事支援が適切にできる専門職を目指す。</p> <p>高齢者・障がい者にとっての食事のあり方や、科目「発達と老化の理解」「心と体の仕組み」と関連付け、様々な疾患に応じた食事の留意点など基本知識・技術を身につける。自ら献立を考え、調理できる能力を習得できる。</p>					
<b>■授業の方法</b>					
<p>『ここからだのしくみ』『障害の理解』『発達の老化と理解』等の講義内容を踏まえ、講義と演習形式で進める。</p> <p>2 コマ続きの授業とする。</p> <p>講義で理論を理解し、実習を通して方法を確認・習得する。</p> <p>授業は、2 コマ続きでの授業とする。</p> <p>実習はグループで実施する。</p>					
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>					
<p>病棟看護師、訪問看護師、介護支援専門員としての実務経験を踏まえ、利用者と家族が抱える不安、介護者への要望等を具体的に伝えていく。そして、私たち介護専門職がすべき支援内容(支援技術)を具体的に考え、実践に結びつけることができるよう演習指導する。</p> <p>管理栄養士として、病院や福祉市越(高齢者・障がい者)で患者・利用者の方々への栄養管理、栄養士・管理栄養士養成施設での勤務に従事して参りました。それらの経験を活かし、「健康に生きる」ことを「食」を通して一緒に考え実践に繋げて参りますが、最終目標として、患者・利用者の方々の、そして学生さん自身の QOL の向上が図れるような視点を養って頂ければと思います。</p>					
<b>■授業終了時の到達課題 (到達目標)</b>					
<p>①障害によって引き起こされる「生活のしづらさ」を説明できる。</p> <p>②障害や疾病の特性を理解し、それに応じた支援技術を説明できる。</p> <p>③生活場面に応じた福祉用具の特徴を説明できる。</p> <p>④障害者の個別性をとらえ、福祉用具を用いた適切な支援を修得する。</p> <p>①食事を通して、高齢者・障がい者の特性を理解することができる。</p> <p>②様々な疾患に応じた栄養・調理の知識を理解し、技術を身につけることができる。</p> <p>③咀嚼・嚥下機能低下に配慮した食事支援を実践することができる。</p> <p>④グループで実習することで、チームの一員として取り組む姿勢を養うことができる。</p>					

<b>■授業計画</b>	
1. オリエンテーション 第1章	
2. 障害に応じた生活支援技術Ⅰ	①聴覚言語障害に応じた介護
3. 同上	②-1 視覚障害に応じた介護
4. 同上	②-2 演習：ガイドヘルプ
5. 同上	③-1 内部障害に応じた介護
6. 同上	③-2 内部障害に応じた介護
7. 同上	③-3 内部障害に応じた介護
8. 同上	③-4 内部障害に応じた介護
9. 同上	④-1 肢体不自由に応じた介護
10. 同上	④-2 肢体不自由に応じた介護(福祉用具・住宅改修)
11. 障害に応じた生活支援技術Ⅱ	①-1 難病に応じた介護
12. 同上	①-2 難病に応じた介護
13. 同上	②精神障害に応じた介護
14. 同上	③知的障害、高次脳機能障害に応じた介護
15. 定期試験	
16. 17. 栄養学・食品額・調理学の基礎知識 (座学)	
18. 19. 実習1：基礎実習 (和食)	
20. 21. 実習2：基礎実習 (洋食)	
22. 23. 実習3：生活習慣病 (エネルギーコントロール、塩分コントロール)	
24. 25. 実習4：生活習慣病 (骨粗鬆症、貧血症)	
26. 27. 実習5：摂食嚥下障害	
28. 29. 実習6：応用実習	
30. 定期試験	
<b>■成績評価</b>	
定期試験 60%、課題等提出物 20%、平常点 20%	
<b>■教科書</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ</li> <li>・「生活支援技術」テキスト (中央法規出版)</li> <li>・参考書として、「食と健康の科学」(建帛社)、「生活支援技術のための調理実習」(建帛社)、「食品成分表」(女子栄養大学出版部)</li> </ul>	
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習の際は、服装を整えること。</li> <li>・火や包丁を使用し危険が伴うため、緊張感を持って実習に臨むこと。</li> </ul>	

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	60 時間	30 回	2 年 ・ 通年
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	介護過程Ⅲ		齊藤 美由紀・岡本 啓介		
<b>■授業のねらい</b>						
利用者理解を図りながら、情報収集をもとに情報の解釈・関連づけ・統合化によって、利用者一人ひとりの生活課題が抽出する。その生活課題をもとに、介護計画の作成および実施・計画を行うことによって、利用者の生活の再構築を支援する介護過程の展開を習得する。						
<b>■授業の方法</b>						
第二段階実習で取り組んだ情報収集をもとに、介護過程の展開方法の講義および演習・グループワークを通して、介護過程の展開を実践する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
長年介護現場に従事してきた様々な経験や事例を通し、実際の介護計画と利用者の生活変化に及ぼす影響等を示しながら、「利用者の望む生活の実現」のための介護過程の展開を図っていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の解釈・関連づけ・統合化を通し、生活課題を抽出することができる。</li> <li>・長期目標、短期目標、具体的な介護の方法を考え、介護計画を立案することができる。</li> <li>・介護計画の実施、評価を実践することができる。</li> <li>・介護計画に示された介護目標を意識した介護実践ができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1. 2 1年次の振り返り／介護過程の復習／情報収集内容の確認 3. 4 介護過程の実践展開 情報の解釈・関連づけ・統合化① 5. 6 介護過程の実践展開 情報の解釈・関連づけ・統合化② 7. 8 介護過程の実践展開 生活課題／優先順位の検討 9. 10 介護過程の実践展開 介護計画の立案① 11. 12 介護過程の実践展開 介護計画の立案②（長期目標・短期目標） 13. 14 介護過程の実践展開 介護計画の立案③（具体的な支援内容と方法） 15. 16 介護過程の実践展開 介護計画の実施① 17. 18 介護過程の実践展開 介護計画の実施② 19. 20 介護過程の実践展開 介護計画の実施③ 21. 22 介護過程の実践展開 介護計画の評価① 23. 24 介護過程の実践展開 介護計画の評価② 25. 26 介護過程の実践展開 再アセスメント／介護計画の修正 27. 28 介護過程とチームアプローチ 29. まとめ 30. 定期試験						

<p>■成績評価</p>
<p>定期試験 60%、出席率 40%</p>
<p>■教科書</p>
<p>介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<p>講義の進捗により、講義内容が変更になる場合がある。</p>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		1 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	介護過程Ⅳ		齊藤 美由紀・岡本 啓介		
<b>■授業のねらい</b>						
利用者理解を図りながら、介護過程の展開を実践した振り返りを通して、専門職としての知識・技術の確認を行うと共に、利用者の生活の再構築を支援する技術を身につける。						
<b>■授業の方法</b>						
第三段階実習で取り組んだ介護過程を用いて、抄録集の作成やパワーポイントによる発表等を通じて、他の学生の取り組みを学び合いながら、自己評価を行っていく。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
長年介護現場に従事してきた様々な経験や事例を通し、実際の介護計画と利用者の生活変化に及ぼす影響等を示しながら、「利用者の望む生活の実現」のための介護過程の展開を図っていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立支援に即した介護計画の立案、実施、評価を実践できる。</li> <li>・ 多職種協働における介護福祉士の役割を説明できる。</li> <li>・ 自ら実践した介護過程の展開について発表することができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第三段階実習の振り返り／抄録集作成の目的と説明</li> <li>2. 介護過程の実践報告 抄録集の作成方法</li> <li>3. 介護過程の実践報告 抄録集の作成①</li> <li>4. 介護過程の実践報告 抄録集の作成②</li> <li>5. 介護過程の実践報告 発表原稿の作成方法</li> <li>6. 介護過程の実践報告 発表原稿の作成①</li> <li>7. 介護過程の実践報告 発表原稿の作成②</li> <li>8. 介護過程の実践報告 発表練習</li> <li>9. 介護過程の実践報告 発表①</li> <li>10. 介護過程の実践報告 発表②</li> <li>11. 介護過程の実践報告 発表③</li> <li>12. 介護過程の実践報告 発表④</li> <li>13. 介護過程の実践報告 発表⑤／発表の総評</li> <li>14. 介護過程の実践報告 まとめ</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期試験 60%、出席率 40%						

<b>■教科書</b>
介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程』中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
講義の進捗により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科		1単位	30時間	15回	2年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	介護総合演習Ⅲ		岡本 啓介		
<b>■授業のねらい</b>						
1年次の学内学習及び施設実習で学びを振り返り、評価した上で自己理解を深める。 また介護福祉士に求められる資質、適正、技能、応用力について総合的に習得する。						
<b>■授業の方法</b>						
今までの実習等での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。そのうえで、実習Ⅱ（現場実習Ⅲ）に向け、目標や計画を立てていく。 また実習報告会を行うことで学びを共有し、プレゼンテーション力を高める。 この科目内に、実習指導者懇談会や就職ガイダンス等が適宜入る可能性もある。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として20年以上の指導経験がある。現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え、乗り越えていくための授業をする。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
これまでの実践で得た知識、技術、倫理観や学内での学びを統合化し、介護現場における実践力を高めることができる。 専門職に必要な資質を向上させ、目指すべき介護福祉士像を明らかにできる。						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 介護実習Ⅱ（第2段階）の自己評価 介護福祉士資格取得時到達目標の確認</li> <li>2. 実習Ⅱ報告会の準備①</li> <li>3. 実習Ⅱ報告会の準備②</li> <li>4. 実習Ⅱ報告会①</li> <li>5. 実習Ⅱ報告会②</li> <li>6. 実習Ⅱ報告会③</li> <li>7. 実習Ⅲに向けて①（実習施設理解、実習目的、方法等）</li> <li>8. 実習Ⅲに向けて②（実習施設指導者から）合同</li> <li>9. 実習Ⅲに向けて③（記録）</li> <li>10. 実習Ⅲに向けて④（目標）</li> <li>11. 実習Ⅲに向けて⑤（プロフィール作成、実習にあたって）</li> <li>12. 実習に向けての準備（実習生としての心構え、実習姿勢など）</li> <li>13. 実習に向けての準備（実習生としての心構え、実習姿勢など）または実習指導者合同懇談会</li> <li>14. 実習に向けての準備 または実習指導者合同懇談会</li> <li>15. 定期試験</li> </ol> <p>※授業の進捗状況やゲストスピーカーの予定により、日程の変更があります。ご了承ください。</p>						



<p>■成績評価</p>
<p>・成績評価 70%、出席率 30%</p>
<p>■教科書</p>
<p>「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「実習要項」日本福祉教育専門学校 介護福祉学科</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<p>・この科目の欠席回数が1/5を超えたとき、原則実習配属しない。 ・講義の進捗により講義内容が変更になる場合がある。</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科		1 単位	30 時間	15 回	2 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	介護総合演習Ⅳ		岡本 啓介		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>介護実習Ⅲ（第3段階実習）の学びを振り返り、自己評価する。</p> <p>実習報告会を実施することで、学びの共有と福祉現場の視野を広める。</p> <p>知識・技術・実習の総合的な学びから介護福祉士に求められる資質を確認し、また、自らの課題を発見し解決していく過程を学ぶ。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>介護実習Ⅲを終え、介護実習を振り返り、自己の達成度や課題を明確にする。</p> <p>実習で学びえたものや疑問を第3段階実習報告会で、共有し、知識や思考の幅を広げる。</p> <p>※学外学習を取り入れることもある。</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>介護福祉士取得後、介護福祉施設等での勤務経験を活かして、介護福祉士養成校教員として20年以上の指導経験がある。現在も介護事業所等での介護教育、介護システムのアドバイザーを務める。それらの経験を活かした、介護実習の課題を共に考え、乗り越えていくための授業をする。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<p>これまでの実践で得た知識、技術、倫理観や学内での学びを統合し、介護現場における実践力を高めることができる。</p> <p>専門職に必要な資質を向上させ、目指すべき介護福祉士像を明らかにできる。</p>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 介護実習Ⅲの自己評価と振り返り①</li> <li>2. 介護実習Ⅲの振り返り②</li> <li>3. 第3段階実習報告会について</li> <li>4. 第3段階実習報告会準備①（研究の視点）</li> <li>5. 第3段階実習報告会準備②（報告会の進め方）</li> <li>6. 第3段階実習報告会準備③（資料作成の方法①）</li> <li>7. 第3段階実習報告会準備④（資料作成の方法②）</li> <li>8. 第3段階実習報告会準備⑤（プレゼンテーション練習①）</li> <li>9. 第3段階実習報告会準備⑥（プレゼンテーション練習②）</li> <li>10. 第3段階実習報告会</li> <li>11. 第3段階実習報告会</li> <li>12. 第3段階実習報告会</li> <li>13. 第3段階実習報告会</li> <li>14. これからの介護を取り巻く環境について・自身の未来の在り方について</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
・成績評価 70%、出席率 30%						

<p>■教科書</p>
<p>「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「実習要項」日本福祉教育専門学校 介護福祉学科</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進捗状況や学外学習（「アクティブ福祉 in 東京」や「国際福祉機器展」を予定）、ゲストスピーカーの予定により、日程の変更があります。ご了承ください。</li> <li>・詳細な日程は授業時に提示する予定です。</li> <li>・実習報告会は土曜日開催など、授業時間以外の登校を求める場合もあることを、あらかじめご承知おきください。</li> </ul>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		7 単位	210 時間	－	2 年 ・ 通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	実習	介護実習Ⅲ		学科専任		
<b>■授業のねらい</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個々の利用者の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</li> <li>2. 利用者の課題を明確にする為、介護計画の作成、実施後の評価、これを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる個別ケアの実践力を修得する。</li> </ol>						
<b>■授業の方法</b>						
実習期間：8月～9月 計27日間 （開始時間・終了時間は各施設に一任・変則勤務あり） 実習施設：介護老人福祉施設、介護老人保健施設など						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護・医療の現場を経験した教員による指導						
<b>■授業修了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者が求めるニーズを理解し適切な介護を展開する能力を養う。</li> <li>2. 個々の利用者を理解し適切な介護サービスが展開できる</li> <li>3. 利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程が展開できる</li> <li>4. 多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する</li> <li>5. 他科目で学習した知識や技術を総合具体的な介護サービスの基本となる実践力を修得する。</li> <li>6. 介護福祉士としての自己を明確にする。</li> <li>7. 介護福祉に関する研究的態度を養う。</li> </ol>						
<b>■授業計画（実習の流れ）</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実習Ⅲの準備等は「介護総合演習Ⅱ」で行う。</li> <li>2. 施設の実習内容、予定に沿って進める。</li> <li>3. 日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す。</li> <li>4. 介護過程を展開する為の情報収集・アセスメント・計画・実施・評価を実践するにあたり、その利用者の選定について指導者の助言を受ける。</li> <li>5. 介護過程を展開の進捗状況を適宜、指導者に報告する。</li> <li>6. 担当教員の巡回時に指導を受ける。</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己評価の視点           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習目標及び自身が設定した実習課題は達成されたか</li> </ol> </li> </ol>						

<p>2) 利用者の個別性の理解ができたか</p> <p>3) 介護者としての自分自身の変化を客観視できたか</p> <p>2. 施設における評価</p> <p>1) 実習評価は当校実習評価表に基づいて行う。 評価基準：4. 十分到達 3. 到達 2. 少し努力が必要 1. かなり努力が必要 0. 不可</p> <p>2) 実習課程において、実習生の利用者への関わり方の具体的な内容を評価する。</p> <p>3) 反省会での自己評価、実習中及び実習後のスーパービジョン、実習記録、利用者の反応などを参考に にする。</p> <p>4) 介護福祉士としての適性に欠けている、専門職を志すものとして重大な問題を抱えていると判断せ ざる得ない学生については、施設実習担当者と担当教員とで協議する。</p> <p>3. 学校における評価</p> <p>1) 実習先からの評価</p> <p>2) 実習巡回の際の所見</p> <p>3) 出席状況</p> <p>4) 実習後のスーパービジョン</p> <p>5) 記録</p> <p>などから総合的に行う。</p>
<p>■教科書</p> <p>なし</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>なし</p>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	認知症の理解Ⅱ		齊藤 美由紀		
<b>■授業のねらい</b>						
認知症の理解Ⅰをふりかえりながら、認知症ケアの理念と認知症の人の特性を理解する。また、認知症ケアについての知識だけでなく、専門職としての認知症介護実践の技術を身につける。						
<b>■授業の方法</b>						
1 年次の認知症の理解Ⅰで習得した知識をもとに、教科書や配布プリントに沿って講義しつつ、グループワークや演習を積極的に取り入れて進める。また、視聴覚教材や様々な事例を用いて、学生が自ら課題を解決できるよう、「考える」授業を展開する。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた様々な経験を通し、実際の事例を交えながらの講義とする。また、理想論だけでなく現実論も重視し、学んだ知識を介護実践においてどのように活かしていくのか、学生がより深くイメージできるよう授業を進めていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症ケアの理念を説明できる。</li> <li>・ 認知症の種類やそれぞれの特性を説明できる。</li> <li>・ 認知症の人への対応方法について発表することができる。</li> <li>・ 専門職として、基本原則に基づく認知症ケアを実践できる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症ケアの理念／認知症の理解Ⅰのふりかえり</li> <li>2. 認知症による体験の理解</li> <li>3. 心理的ニーズ①</li> <li>4. 心理的ニーズ②／パーソンセンタードケア</li> <li>5. アセスメントツール</li> <li>6. アセスメントの視点</li> <li>7. 認知症の人とのかかわり方</li> <li>8. 認知症の人へのケア①</li> <li>9. 認知症の人へのケア②</li> <li>10. 認知症の人へのケア③</li> <li>11. 認知症の人へのアプローチ法</li> <li>12. 介護者への支援／認知症の人の終末期医療と介護</li> <li>13. 認知症に関する制度・施策・関係機関</li> <li>14. 今講義まとめ</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期試験（70％）、出席率（30％）						

<p>■教科書</p>
<p>介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』中央法規 (第3章～第7章)</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<p>実践力を身につけるため、積極的にグループワークと演習に参加すること。 講義の進捗により、講義内容や順番が変更になる場合がある。</p>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	障害の理解Ⅱ		金城 隆		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>障害がある人と向き合うための基本的な知識を学習する。</p> <p>障害種別ごとの身体的・心理的側面をふまえた生活とそれに応じた支援について学習する。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及びレジュメを使用した講義</li> <li>・各分野にてミニテストを実施</li> <li>・状況により動画による視聴授業も取り入れる</li> </ul>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。様々な疾病・障害による症状やケア・リハビリテーションの実例を交え講義する。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の欲求や適応機制、障害受容の心理の知識が答えられる。</li> <li>・障害種別ごとの特性・特性に応じた支援が答えられる。</li> </ul> <p>（肢体不自由・視覚障害・聴覚言語障害・重複障害・重症心身障害・知的障害・精神障害・発達障害）</p>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害のある人の心理（欲求・適応機制・障害受容過程）</li> <li>2. 肢体不自由について</li> <li>3. 肢体不自由の特性に応じた支援</li> <li>4. 視覚障害について</li> <li>5. 視覚障害の特性に応じた支援</li> <li>6. 聴覚障害・言語障害について</li> <li>7. 聴覚・言語障害の特性に応じた支援</li> <li>    重複障害について</li> <li>8. 重症心身障害について・特性に応じた支援</li> <li>9. 知的障害について・特性に応じた支援</li> <li>10. 精神障害について</li> <li>11. 精神障害の特性に応じた支援</li> <li>12. 発達障害について</li> <li>13. 発達障害の特性に応じた支援</li> <li>14. 試験対策</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
筆記試験 80% ・ 出席状況 20%						



<b>■教科書</b>
「最新・介護福祉士養成講座 14巻 障害の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
・状況により対面授業から動画視聴授業に変更する場合がある。

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	障害の理解Ⅲ		金城 隆		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>障害がある人と向き合うための基本的な知識を学習する。</p> <p>障害種別ごとの身体的・心理的側面をふまえた生活とそれに応じた支援について学習する。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及びレジュメを使用した講義</li> <li>・各分野にてミニテストを実施</li> <li>・状況により動画による視聴授業も取り入れる</li> </ul>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。様々な疾病・障害による症状やケア・リハビリテーションの実例を交え講義する。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<p>・障害種別ごとの特性・特性に応じた支援が答えられる。（内部障害・高次脳機能障害・難病）</p>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部障害（心臓機能障害）について・特性に応じた支援</li> <li>2. 内部障害（呼吸器機能障害）について・特性に応じた支援</li> <li>3. 内部障害（腎臓機能障害）について・特性に応じた支援</li> <li>4. 内部障害（膀胱・直腸機能障害）について・特性に応じた支援</li> <li>5. 内部障害（小腸機能障害）について・特性に応じた支援</li> <li>6. 内部障害（ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害）について・特性に応じた支援</li> <li>7. 内部障害（肝臓機能障害）について・特性に応じた支援</li> <li>8. 確認テスト・復習</li> <li>9. 高次脳機能障害について</li> <li>10. 高次脳機能障害の特性に応じた支援</li> <li>11. 難病について</li> <li>12. 難病の特性に応じた支援</li> <li>13. 確認テスト・復習</li> <li>14. 試験対策</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
筆記試験 80% ・ 出席状況 20%						

<b>■教科書</b>
「最新・介護福祉士養成講座 14巻 障害の理解」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
・状況により対面授業から動画視聴授業に変更する場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科1クラス		2単位	30時間	15回	2年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必須	講義	こころとからだのしくみⅢ		八子 久美子		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>休息・睡眠のしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解し実践に生かすことができる。</p> <p>人生の最終段階のケアに関するこころとからだのしくみを学び、生活支援を行う際に必要な基礎知識を学修する。看取りに関しては、利用者や家族に寄り添うケアとは何か、専門職として必要な基本的知識・技術、態度、倫理観を修得することを目指す。自分自身の「死生観」について考える機会とする。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>教科書やプリント、パワーポイントを用いた講義、より理解を深めるために、視聴覚教材や事例を使用する。グループワークも取り入れ、意見交換しながら、理解を深めていく。授業の振り返りの豆テストを行い、理解度を確認のために適宜[確認テスト]を行っていく。</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで8年の実務経験を生かした講義を行う。特に人生の最終段階におけるケアについては、大学病院で看取りと、訪問看護で行った看取りの違いについて示し、介護福祉士が最期まで寄り添うケアとは何か考えられることを目指す。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<b>【休息・睡眠のしくみ】</b>						
<p>① 正常な睡眠のメカニズムを理解し、睡眠の質を高めるための方法や生活習慣について説明できる。</p> <p>② 加齢による睡眠の変化や高齢者に多い睡眠障害について説明できる。</p>						
<b>【人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ】</b>						
<p>看取りにおける人体機能の低下を理解し、利用者の状態に合わせて、医療職と協同・連携できる知識の習得ができる。介護職としての死生観の必要性を理解することができる。</p> <p>① 人間の「死」に関して生物学的・法律的・臨床的な死、尊厳死、自然死を理解し、それぞれの「死」が利用者にとってどのような影響を及ぼすのか説明できる。</p> <p>② 人生最終段階のケアにおける心身機能の変化を理解し、利用者の状態に合わせて質の高い生活支援ができ、医療職と連携、協働するために必要なポイントを説明できる。</p> <p>③ 「死」に直面した利用者と家族の受容プロセスを理解し、最期まで寄り添う介護福祉士の役割について自分の意見を述べられる。</p>						
<b>■授業計画</b>						
<p>1. オリエンテーション、睡眠関連①（生理的意義）</p> <p>2. 睡眠関連②（睡眠のしくみ）</p> <p>3. 睡眠関連③（睡眠パターン、高齢者の睡眠理解）</p> <p>4. 睡眠関連④（機能低下が及ぼす影響）</p> <p>5. 睡眠関連⑤（睡眠障害）</p> <p>6. 睡眠関連⑥（睡眠と薬、睡眠のまとめ）</p> <p>7. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ① [確認テスト1]</p>						

<p>(死のとらえ方、人が死を迎えることはどのようなことなのか DVD を鑑賞し、考察する)</p> <p>8. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ② (DVD から告知、死の受容過程、終末期の身体の変化、家族にとっての死の理解)</p> <p>9. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ③ (死を理解する、死の定義、生物学的・法律的・臨床的な死、尊厳死)</p> <p>10. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ④ (リビングウィル、生命倫理) DVD「白い遺言状」グループワーク</p> <p>11. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ⑤ (緩和医療)</p> <p>12. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ⑥ (平穏死を考える)</p> <p>13. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ⑦ (終末期ケア 命を支える援助コミュニケーション) [確認テスト2]</p> <p>14. 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ⑧ (終末期のケア 在宅ホスピスの理解)</p> <p>15. 定期試験</p>
<p>■成績評価</p> <p>出席率 40% 定期試験 60%</p> <p>※出席率とは課題提出や確認テストを含む</p>
<p>■教科書</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座 11 ところとからだのしくみ」中央法規</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p> <p>介護施設実習での経験と知識の統合化が必要となります。</p>

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科 2 クラス		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	こころとからだのしくみⅢ		金城 隆		
<b>■授業のねらい</b>						
・生活場面（休息・睡眠、終末期）によるこころとからだのしくみについて、機能低下が及ぼす影響、変化に対する観察・医療職との連携ポイントを学習する。						
<b>■授業の方法</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及びレジュメを使用した講義</li> <li>・各分野ごとにミニテストを実施</li> <li>・状況により動画による視聴授業も取り入れる</li> </ul>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリなどを担当する。人間の生活場面の応じたこころとからだのしくみや観察のポイントなどを、実例を交え講義する。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠のしくみ・睡眠障害・快適な睡眠への支援が答えられる。</li> <li>・終末期における心身の変化・死の捉え方について答えられる。</li> <li>・死や終末期における自分の価値観・考えを述べることができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こころとからだのしくみの復習（脳・心臓）</li> <li>2. こころとからだのしくみの復習（消化器・泌尿器）</li> <li>3. こころとからだのしくみの復習（骨格・関節系）</li> <li>4. 休息・睡眠のしくみ</li> <li>5. 睡眠の質を高めるために</li> <li>6. 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</li> <li>7. 睡眠での観察ポイント</li> <li>8. 死のとらえ方</li> <li>9. 死に対するこころの変化</li> <li>10. 終末期の身体の変化・死後の身体の変化</li> <li>11. 終末期における医療との連携</li> <li>12. 終末期事例</li> <li>13. 死生観について</li> <li>14. 試験対策</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
筆記試験 80% ・ 出席状況 20%						

<b>■教科書</b>
「最新・介護福祉士養成講座 11巻 こころとからだのしくみ」中央法規
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
・状況により対面授業から動画視聴授業に変更する場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科		3 単位	60 時間	30 回	2 年・通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	医療的ケア I		金城 隆・近藤 真名美		
<b>■授業のねらい</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ニーズのある利用者に対して、喀痰吸引・経管栄養の接続の技術が提供できるよう、必要な知識・技術を習得する。</li> <li>・科目：医療的ケア I と II 受講により、医療的ケア基本研修を修了する。</li> </ul>						
<b>■授業の方法</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト及びレジュメを使用した講義</li> <li>・各分野ごとにミニテストを実施</li> <li>・状況により動画による視聴授業も取り入れる</li> </ul>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師取得後、病院・福祉施設に 10 年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリ・医療処置などを担当する。現場の事例を交えた講義をする。</li> </ul>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施に必要な知識・技術を習得できる（定期試験 90 点以上）。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
1.2 総論（オリエンテーション・医療的ケアとは） 3.4 総論（制度・しくみ） 5.6 総論（安全な療養生活） 7.8 総論（清潔保持と感染予防） 9.10 総論（健康状態の把握） 11.12 試験対策・確認テスト 13.14 喀痰吸引概論（呼吸器のしくみ・いつもと違う呼吸状態・喀痰吸引とは） 15.16 喀痰吸引概論（人工呼吸器と吸引） 17.18 喀痰吸引概論（子どもの吸引・利用者と家族の気持ち・呼吸器系感染と予防・吸引で生じる危険） 19.20 喀痰吸引概論（練習問題 1・喀痰吸引実施手順解説【必要物品・清潔保持方法】） 21.22 喀痰吸引概論（喀痰吸引実施手順解説【吸引の技術と留意点・喀痰吸引にともなうケア】） 23.24 喀痰吸引概論（喀痰吸引実施手順解説【口腔内吸引シュミレーション】） 25.26 喀痰吸引概論（喀痰吸引実施手順解説【鼻腔内吸引シュミレーション】） 27.28 喀痰吸引概論（喀痰吸引実施解説手順【気管カニューレ内部の吸引シュミレーション】練習問題 2） 29.30 試験対策、定期試験（医療的ケア II における経管栄養概論を終了してから実施する）						
<b>■成績評価</b>						
筆記試験 80%・出席状況 20% <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省規定により、筆記試験（定期試験）90%以上でなければ、演習をすることができない。</li> </ul>						



・厚生労働省規定により、座学（医療的ケアⅠと医療的ケアⅡの14回まで全44コマ（66h）のうち、50h以上の出席がない場合は、医療的ケアⅡの14～30回の演習に参加することができない。

■教科書

「最新・介護福祉士養成講座 15巻 医療的ケア」中央法規

■履修にあたっての留意点、その他

・状況により対面授業から動画視聴授業に変更する場合がある。

年度	学 科	単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科	3 単位	60 時間	30 回	2 年 ・ 通年
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員	
必修	講義 及び 演習	医療的ケアⅡ		・金城 隆・近藤 真名美 ・中島 たまみ・古田 由美子 ・田中 典江・竹内 麻貴 ・宮崎 弘美	
<b>■授業のねらい</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ニーズのある利用者に対して、喀痰吸引・経管栄養の接続の技術が提供できるよう、必要な知識・技術を習得する。</li> <li>・科目：医療的ケアⅠとⅡ受講により、医療的ケア基本研修を修了する。</li> </ul>					
<b>■授業の方法</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～14回：管栄養概論の座学授業（ミニテスト・確認テスト実施あり）</li> <li>・15～30回：シュミレーターを使用した実技演習（5つの医療行為を各5回以上・心肺蘇生法1回以上）</li> <li>・厚生労働省の規定により、各医療行為（吸引と経管栄養）の演習は5回以上の実施かつ最終1回の完璧な合格が必要。</li> </ul>					
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師取得後、病院・福祉施設に10年以上勤務。現在も福祉事業所で高齢者の健康管理・リハビリ・医療処置などを担当する。現場の事例を交えた講義をする。</li> </ul>					
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施に必要な知識を習得できる（定期試験90点以上）。</li> <li>・医療的ケア実施に必要な知識・技術を習得できる（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部の吸引・胃瘻経管栄養・経鼻経管栄養・心配蘇生法）</li> </ul>					
<b>■授業計画</b>					
1.2 経管栄養概論（消化器系のしくみとはたらき・よくある症状）					
3.4 経管栄養概論（経管栄養とは・栄養剤について・経管栄養実施上の留意点）					
5.6 経管栄養概論（子どもの経管栄養・経管栄養に感係する感染と予防・利用者家族への対応・危険・安全確認・トラブル対応）					
7.8 経管栄養概論（練習問題1・経管栄養実施手順1）					
9.10 経管栄養概論（経管栄養実施手順2・3）					
11.12 経管栄養概論（胃瘻経管栄養シュミレーション1・2）					
13.14 経管栄養概論（経鼻経管栄養シュミレーション1・2・練習問題2）					
15.16 演習①（吸引・経管栄養グループに分かれ実施・心肺蘇生法全員実施）					
17.18 演習②（吸引・経管栄養グループに分かれ実施）					
19.20 演習③（吸引・経管栄養グループに分かれ実施）					
21.22 演習④（吸引・経管栄養グループに分かれ実施）					
23.24 演習⑤（吸引・経管栄養グループに分かれ実施）					
25.26 演習⑥（吸引・経管栄養グループに分かれ実施）					

27.28 演習⑦（吸引・経管栄養グループに分かれ実施）

29.30 演習⑧（吸引・経管栄養グループに分かれ実施）

■成績評価

演習習得状況 80%・出欠席状況 20%

- ・厚生労働省規定により、筆記試験（定期試験）90%以上でなければ、演習をすることができない。
- ・厚生労働省規定により、座学（医療的ケアⅠと医療的ケアⅡの14回目まで全44コマ（66h）のうち、50h以上の出席がない場合は、医療的ケアⅡの15～30回の演習に参加することはできない。
- ・次の医療行為は各5回以上の実施のうえ、最終回は完全合格の評価が必要。（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部の吸引・胃瘻経管栄養・経鼻経管栄養）
- ・心配蘇生法は1回以上の実施が必要（評価はなし）

■教科書

「最新・介護福祉士養成講座 15巻 医療的ケア」中央法規

■履修にあたっての留意点、その他

- ・状況により座学授業は動画視聴の授業にすることがある。
- ・演習は必ず対面授業で実施する。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022年度	介護福祉学科		2単位	30時間	15回	2年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	介護の応用		齊藤 美由紀		
<b>■授業のねらい</b>						
<p>専門職としての必要な知識や技術を統合させ、現場実践で活かせる力を身につける。施設・在宅を問わず、実際の介護現場における実践力・応用力をつけることで、介護福祉士として継続して就業できる力を習得する。</p>						
<b>■授業の方法</b>						
<p>本科目はテキストがないため、配布資料を中心に授業を進める。また、内容に応じてゲストスピーカーをお招きし、現場実践者からの生の声を学ぶことで、実践力を高める授業を行う。学生の主体的参加による授業を行っていくため、学生が学びたいことなども取り入れながら授業を進める。</p>						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
<p>介護福祉士、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた様々な経験を通し、介護施設・介護事業所における多様な働き方や運営方法を紹介する。学生が将来への展望や目標を描けるよう、介護業界の展望や変化を踏まえながら、様々な内容について取り上げていく。</p>						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場におけるリスクを考え、リスクに対する予防策について自分の考えを発表できる。</li> <li>・介護保険制度における介護サービスについて理解し、法令順守に基づく介護実践ができる。</li> <li>・介護報酬の仕組みを理解し、経営目線も養いながら適切な介護実践ができる。</li> <li>・災害時における要介護者の心身の変化と災害時支援の方法について学び、災害時の状況に応じた支援を行うことができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リスクマネジメントと事件事例①</li> <li>2. リスクマネジメントと事件事例②</li> <li>3. リスクマネジメントと事件事例③</li> <li>4. 介護保険制度における介護サービスと介護報酬の仕組み①</li> <li>5. 介護保険制度における介護サービスと介護報酬の仕組み②</li> <li>6. 介護保険制度における介護サービスと介護報酬の仕組み③</li> <li>7. 災害時における要介護者への支援①</li> <li>8. 災害時における要介護者への支援②</li> <li>9. 災害時における要介護者への支援③</li> <li>10. レクリエーション／介護予防①</li> <li>11. レクリエーション／介護予防②</li> <li>12. レクリエーション／介護予防③</li> <li>13. 高齢者の生きがいと心身への影響（動画視聴）</li> <li>14. 高齢者の生きがいと心身への影響（動画視聴）</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						

<b>■成績評価</b>
定期試験 60%、出席状況 40%により、総合的に評価する。
<b>■教科書</b>
テキストなし。資料配布。
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
学生からの要望や講義の進捗により、講義内容や順番を変更する場合がある。

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年 ・ 半 期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	高齢者自立支援介護		小平めぐみ		
<b>■授業のねらい</b>						
自立支援介護の理論を理解し、身体・認知症それぞれの課題を抽出することができる。						
<b>■授業の方法</b>						
介護職が自立支援介護を行う意味を理解し、高齢者の自立性を回復するための知識と技術を当科目で身につける。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士修得後、介護老人保健施設、介護福祉施設、デイケア、デイサービス、訪問入浴など15年以上勤務。現在も施設の職員教育、地域の家族支援事業に携わっている。その中で、自立支援介護における実践と研究をおこなってきた。今までの経験と研究的視点を活用し、自立支援介護の実践事例を紹介しながら講義と講義を補足する演習をおこなう。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
要介護高齢者が自立性を回復できることを理解し、自立支援型の課題別介護計画の作成と認知症アセスメントができる。						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自立支援介護総論</li> <li>2. 高齢者の心身の特徴</li> <li>3. 自立支援介護の基礎-水分</li> <li>4. 自立支援介護の基礎-歩行</li> <li>5. 自立支援介護の基礎-排泄（排便）</li> <li>6. 自立支援介護の基礎-排泄（排尿）</li> <li>7. 自立支援介護の基礎-食の自立Ⅰ</li> <li>8. 自立支援介護の基礎-食の自立Ⅱ</li> <li>9. パワーリハビリテーション</li> <li>10. 自立支援介護実践施設の取組</li> <li>11. 身体介護の事例を用いた演習（課題別介護計画の作成）</li> <li>12. 家族で治そう認知症 認知症と認知障害</li> <li>13. 認知症と認知障害</li> <li>14. 認知症タイプ別ケア（演習：タイプ判定）</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期テスト 60%、出欠状況 30%、課題レポート 10%						

<b>■教科書</b>
新版介護基礎学-高齢者自立支援の理論と実践 著書：竹内孝仁 発行：医歯薬出版株式会社（2017）
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
自立支援介護の実践者をお招きする回があるため、講義内容が前後する可能性があります。 授業の内容から、課題を出します。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	介護福祉総合学 I		岡本 啓介・学科教員		
<b>■授業のねらい</b>						
介護福祉士国家試験の合格を目指し、各科目の知識を身に付けていく。現時点での得意科目、不得意科目を把握し、得点力アップを図る。						
<b>■授業の方法</b>						
国家試験の各領域（社会系、介護系、医療系）の学科教員が、頻出項目、重要ポイントの講義を中心に、練習問題・過去問題等を取り入れながら行う。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
介護福祉士養成校教員として、また社会人向け受験対策講座講師としての受験指導経験を踏まえ、各科目の頻出項目、重要ポイントの整理及び復習を行う。 また、練習問題や過去問題を使用して基礎力強化から応用力の養成まで行っていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の重要ポイントを理解し、国家試験頻出問題を正答できる。</li> <li>・国家試験合格レベルに達することができる（6割の得点 75/125 問以上の得点を目指す）。</li> <li>・定期試験では6割の得点、24/40 問以上の正答ができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 国家試験受験に向けて</li> <li>2. 介護系科目授業</li> <li>3. 介護系科目授業</li> <li>4. 介護系科目授業</li> <li>5. 介護系科目授業</li> <li>6. 社会系科目授業</li> <li>7. 社会系科目授業</li> <li>8. 社会系科目授業</li> <li>9. 医療系科目授業</li> <li>10. 医療系科目授業</li> <li>11. 医療系科目授業</li> <li>12. 医療系科目授業</li> <li>13. 過去問題①（午前問題）</li> <li>14. 過去問題②（午後問題）</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
定期試験 60%、出席率 40%						



<b>■教科書</b>
「目で覚える介護福祉士国試ナビ 2022」中央法規 介護福祉士国家試験過去問題
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
定期試験の合格だけでは、国家試験に合格することは難しいです。毎回の授業に参加し、国家試験合格への実力を身に付けていきましょう。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2022 年度	介護福祉学科		2 単位	30 時間	15 回	2 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	介護福祉総合学Ⅱ		岡本 啓介・学科教員		
<b>■授業のねらい</b>						
介護福祉士国家試験の合格を目指し、各科目の知識を身に付けていく。現時点での自身の知識レベルを把握し、得点力アップを図る。						
<b>■授業の方法</b>						
国家試験の各領域（社会系、介護系、医療系）の学科教員が、頻出項目、重要ポイントの講義を行うと共に、過去問題等の練習問題を実施し、主体的な学習に繋げていく。						
<b>■実務経験と授業内容への活用</b>						
各領域（社会系、介護系、医療系）の専門教員が、過去の国家試験問題の分析と出題予想を図りながら授業を進めていく。						
<b>■授業終了時の到達課題（到達目標）</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の重要ポイントを理解し、国家試験頻出問題を正答できる。</li> <li>・国家試験合格レベルに達することができる（7割の得点 85/125 問以上の得点ができる）。</li> <li>・定期試験では7割の得点、28/40 問以上の正答ができる。</li> </ul>						
<b>■授業計画</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護系科目解説（過去問題①）</li> <li>2. 社会系科目解説（過去問題①）</li> <li>3. 医療系科目解説（過去問題①）</li> <li>4. 過去問演習②（午前問題）</li> <li>5. 過去問演習②（午後問題）</li> <li>6. 介護系科目解説（過去問題②）</li> <li>7. 社会系科目解説（過去問題②）</li> <li>8. 医療系科目解説（過去問題②）</li> <li>9. 過去問演習③（午前問題）</li> <li>10. 過去問演習③（午後問題）</li> <li>11. 介護系科目解説（過去問題③）</li> <li>12. 社会系科目解説（過去問題③）</li> <li>13. 医療系科目解説（過去問題③）</li> <li>14. 定期試験対策（最終確認）</li> <li>15. 定期試験</li> </ol>						
<b>■成績評価</b>						
・成績評価 70%、出席率 30%						

<b>■教科書</b>
「目で覚える介護福祉士国試ナビ 2022」中央法規 介護福祉士国家試験過去問題 その他、適宜プリントを配布
<b>■履修にあたっての留意点、その他</b>
定期試験の合格だけでは、国家試験に合格することは難しいです。毎回の授業に参加し、国家試験合格へ の実力を身に付けていきましょう。

